



やさしい 家庭菜園づくり

J A 金 沢 市 ・ 金 沢 営 農 協 議 会

目 次

平成19年1月作成

■ 果菜類 ■

キュウリ	1
スイカ	2
メロン	3
カボチャ	4
トマト	5
ピーマン	6
ナス	7
イチゴ	8
スイートコーン	9
オクラ	10
エダマメ	11
エンドウ	12
千石豆(フジマメ)	13

■ 葉菜類 ■

キャベツ	14
ブロッコリー	15
ハクサイ	16
レタス	17
ネギ	18
シュンギク	19
ミズナ	20
ハウレンソウ	21
金時草	22

■ 根菜類 ■

タマネギ	23
ジャガイモ	24
サトイモ	25

サツマイモ	26
ヤマイモ	27
ダイコン	28
カブ	29
ニンジン	30

■ 果樹 ■

かき	31
ぶどう(デラウエア)	32
うめ	33
農業用語説明	34~38
栽培日誌	39~41
農薬希釈倍率換算表	

- ① 農薬の登録は日々更新しており、また使用に関しては多様化しています。使用に関しましては間違いの無いよう必ずラベル裏を確認するか、指導機関（県央農林、アグリセンター等）に問い合わせください。
- ② 平成18年5月よりポジティブリスト制度が導入されました。ポジティブリスト制度とは全ての農薬、作物に残留の基準が決められています。農薬の使用に関して隣人の圃場または違う作物に飛散しないよう十分に注意してください。



キュウリ

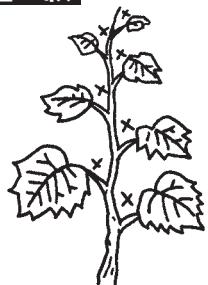
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培

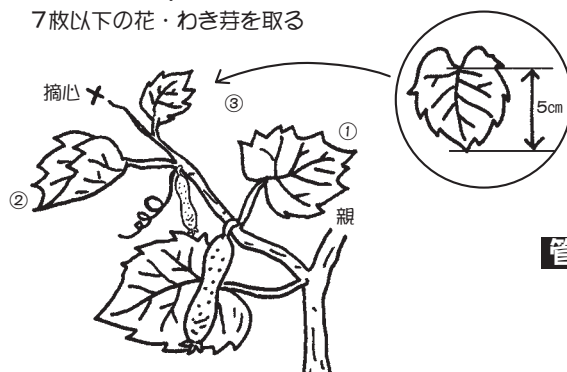


○ 植えつけ ■■■■■ 収穫

整 枝

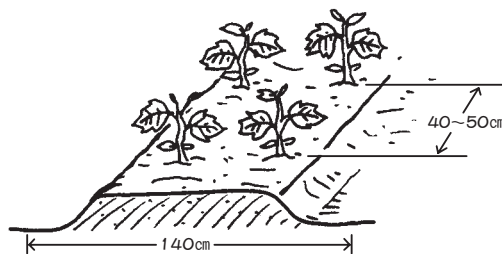


7枚以下の花・わき芽を取る

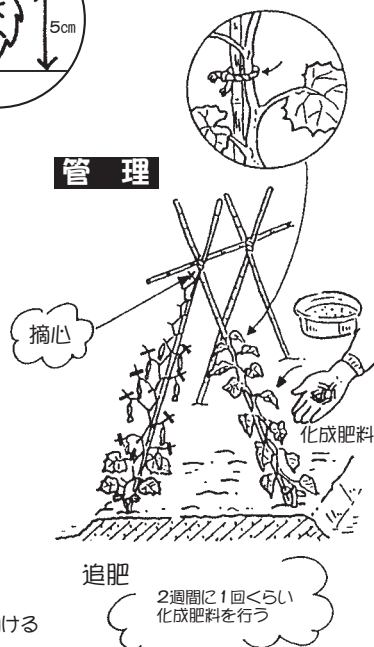


3枚目の葉の長さが5cm以上の時に摘心する

植えつけ



管 理



追肥

2週間に1回<5リ
化成肥料を行う

育て方のポイント

生育適温 5-18 ~ 25-35℃

①畑の準備

- 苦土石灰と基肥を畑に施用する(同時施用しない)

②植えつけ

- 挿木苗を使い、親蔓の1本仕立てとし、株間を40~50cmで植える
- 植えつけ時に挿木部分が土に埋まらないようにし、十分に灌水する

③誘 引

- 植え付け後なるべく早く支柱に誘引する

④整 枝

- 主枝の下葉7枚以下の雄花・雌花・わき芽は取り、8枚以上の側枝に着果させる
- 8枚目から発生する側枝は、3枚目の葉の長さが5cmに成長するとその上を摘心する
- 自分の手の届く高さで主枝の摘心を行う

⑤摘 葉

- 葉の半分以上変色している葉を取り除く
- 混み合っている場合は摘葉を行うが、2日に1枚以内にとどめる

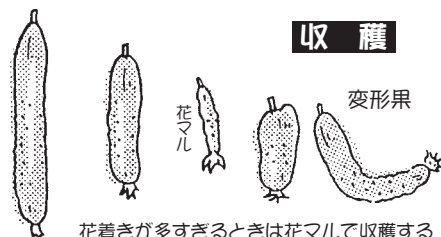
ワ ンポイント

- 根を伸長させるため、7枚以下の花やわき芽を取る
- 実が大きくなってから収穫すると草勢が低下するため、100~120gを目安に収穫する
- 曲り胡瓜は草勢の低下の合図、そのため若取りをして、草勢を回復させる
- 4月下旬に定植する場合トンネルを行う

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	160g	※40g×数回	
苦土石灰	120g		
コンポストエース	2kg		

※追肥1回目は第1花(8節目の花)が開花始めに、1回目の追肥を行い、その後草勢を見ながら2週間に1回行う



花着きが多すぎるときは花マールで収穫する
変形果は小さいうちに収穫し、他の果実の肥大を助ける



スイカ

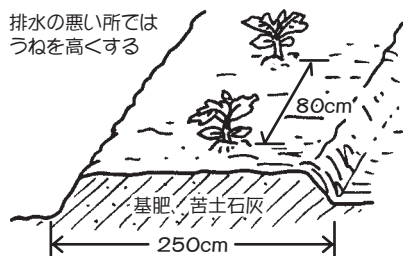
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培

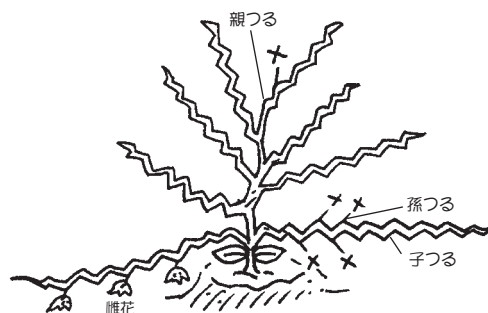
●種まき ○植えつけ ■収穫

畑の準備・植えつけ

排水の悪い所では
うねを高くする



整 枝



着果節までの孫つるは除去しておく
3～4 番花に着果させる
子つるは左右に振り分ける
つるを株元へ引き戻し草勢を調節する

育て方のポイント

①畑の準備

- 排水の悪い所ではうねを高くしておく
- 植え付けの2週間前に基肥と石灰を施し、よく耕うんする
- 地温を上げるため、植えつけ前にマルチをしておく(目安は地温15℃以上)
- 株間は80cmを目安にする

②植えつけ

- 本葉4～5枚の苗を植え付け、十分に灌水する

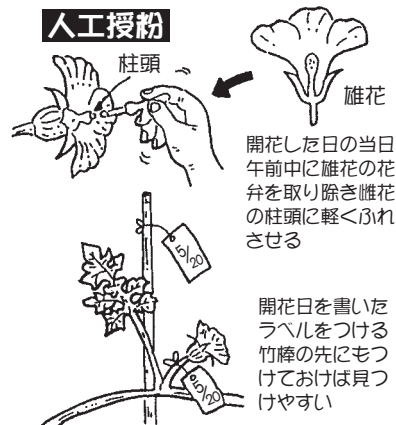
③管 理

- 親つるの摘心は本葉9～10枚で行う、子つるは8本仕立てとする
- 着果節までの孫つるは除去しておく(但し、着果節以後の葉は果実の品質に影響するので残しておく)
- 人工交配を行う場合は、開花した日の当日午前中に行う
- 着果は1株に4個を基準とし、3～4番花に着果させる

④収 穫

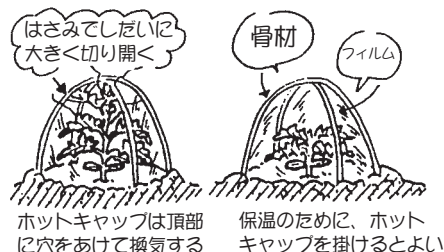
- 開花から40日前後を目安に収穫する(小玉は35日前後)
- 適熟収穫をするために、日付けを標示しておく(とよい)

人工授粉



開花した日の当日
午前中に雌花の花
弁を取り除き雌花
の柱頭に軽くふれ
させる

開花日を書いた
ラベルをつける
竹棒の先にもつ
けておけば見
つけやすい



収 穫



開花後40日後を目安に収穫する
試し採りして食べてみるとよい

ワ ンポイント

- 土壌病害の回避と低温時の生育をよくするには、拮木苗を使用するとよい
- 基肥が多いと着果不良を起こすので注意する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	100g	50g	40g	
苦土石灰	100g			
コンポストエース	(2kg以上)			

※1回目の追肥は着果を確認してからうねの周囲に施す
※2回目の追肥は果実がソフトボール大になった頃に施す

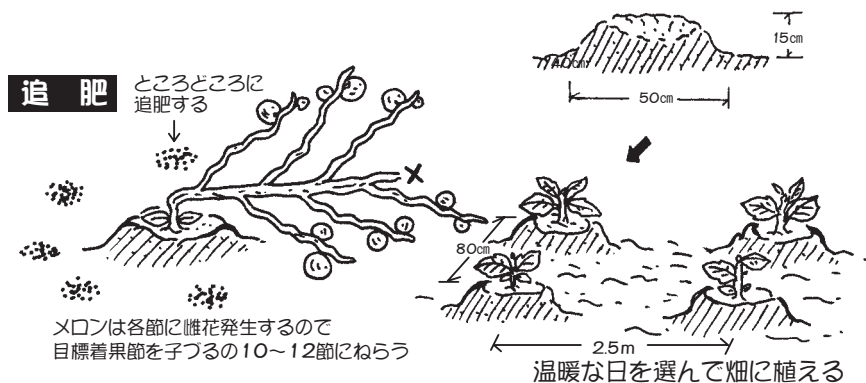


メロン

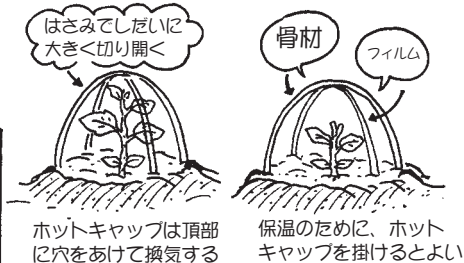
作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル早熟			●	△	☆	■						
			●	○	☆	■						

● 種まき △ 定植(ホットキャップ) ☆ 交配 ■ 収穫
○ 植えつけ

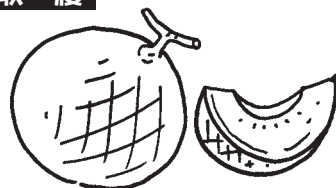
植えつけ



温暖な日を選んで畑に植える



収穫



標示後35~40日になったら試し採りして食べてみる
熟していれば同じ日付のものは熟度がよい

育て方のポイント

①畑の準備

- 作付予定地は、苦土石灰、肥料を全面に施用し耕起しておく
- 透明マルチで地温の確保を図る(16℃以上目安)

②植えつけ

- 本葉3~4枚で定植する
- 株間70~80cmとして植えつける

③管 理

- 親づるは、本葉7枚頃に摘心し、子づるの発生をうながす(6本仕立て)
- 着果節までの孫づるは全てかきとる
- 着果率を上げるため交配は、人工交配で行う
- 交配後、開花後24時間以内に雌花の上の葉1枚を残して摘心する
- 果実が鶏卵ぐらいの頃に、形の良いものを1つにあたり1~2個残して摘果する(交配10日後までに)
- やや縦長目のものを残すと将来的に果実は丸くなる
- 交配した日を葉に書いておく、またはラベルを付けておく
- 交配日から35~40日を目安に収穫する



ワンポイント

- 『つる割病回避』のために接木苗を使用する
- 着果したら花落ち部分の花は、『つる枯病』予防のためにつみとる

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土石灰	100g			
サンフルーツ	200g	50g	(30g)	
コンポストエース	4kg			

※2回目の追肥は、生育後半の草勢低下がみられる場合(着果後10~15日頃)は追肥を行なう

やさしい 野菜づくり



カボチャ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル栽培						△又はΛ	●○○	☆	■			

●種まき ○植えつけ △トンネル被覆 Λホットキャップ ☆交配 ■収穫

基肥は堆肥と
化成肥料を畝
全面にまき
き込んでおく



大きくなれば
テントの頂部
を切り取り
換気する

ホットキャップ
割し竹

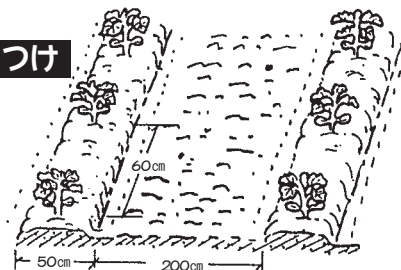
整枝と誘引

親づる
勢いのよい
子づる



親づるを摘心し、子づる6本を伸ばす 他の子づるはかきとる つるは畝の両側へ畝に直角に3本ずつ配置して込み合いを防ぐ

植えつけ



追肥

第1回はトンネル除去前畝の
両側に化成肥料を施す



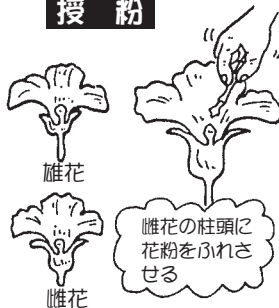
第2回は開花後20日ごろ、
株間のところどころに化成
肥料を少しばらまく

収穫



開花後45～50日たって花梗の
コルク層が4本以上現れたら収穫する

授粉



雄花

雌花

雌花の柱頭に
花粉をふれさ
せる

育て方のポイント

生育適温 20℃前後

①畑の準備

- 苦土石灰、堆肥、基肥を施して耕す
- 地温上昇と雑草抑制をねらいマルチを被覆する

②植えつけ

- 温暖な日に株間60cm、条間200cmで定植する
- 十分にかん水後トンネル又はホットキャップをかける
- 定植後3日前後はトンネル、ホットキャップ内が30℃以上の高温にならないよう注意しながら活着を促す
- その後外温が15～17℃に安定したらトンネル又はホットキャップを除去する

③整枝

- 生育の揃った子づるで6本仕立てとする
- 2番果を目標とする
- 側枝は15cm以上伸びないうちに摘み取る

④交配

- 晴れた日に人工交配を行う
- 雌花が開花したら早朝に雄花の花粉の発生を確認し交配する

⑤玉直し

- 果形と果色が均一に仕上がるように開花後10～14日頃台座を敷く

⑥収穫

- 収穫は開花後45～50日頃で、花梗のコルク層が4本以上現れたら行う

ワンポイント

- カボチャの花粉は水に弱い為、葉のぬれなど水に付けにくい様にする

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	100g	70g	70g	
苦土石灰	100g			
コンポストエース	1kg			

※追肥1回目はトンネル除去前に、2回目は開花後20日頃に行う



トマト

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

抑 制



● 播種 ○ 植えつけ 〰 収穫

植えつけ 一番花を外側に向けて植える

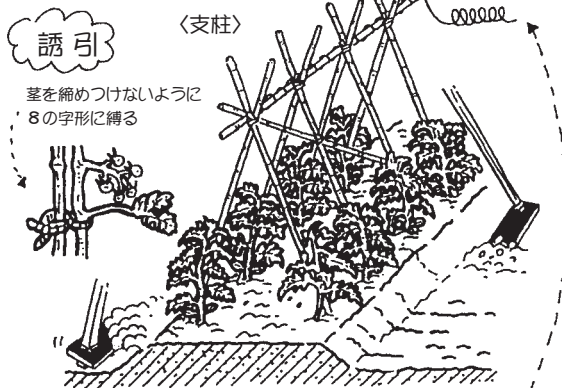


トマトの植え方

苗はなるべく浅く植える



支柱立て・誘引



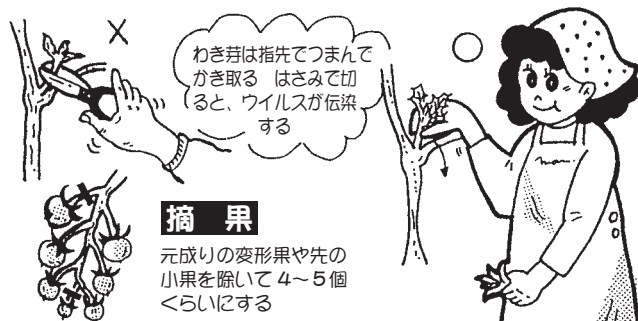
テープやひもは長いまま縛る
ほうがしっかりする 斜めの支
えも入れて耐風力をつける

芽かき・摘心



わきの芽は各節とも早めに
取り除き、主枝を一本にする

最上段の花の
上二葉を残す



摘 果

元成りの変形果や先の
小果を除いて4~5個
くらいにする

育て方のポイント

発芽適温 20 ~ 30℃
生育適温 25 ~ 28℃前後(夜温 15℃前後)

①畑の準備

- 土壌病害回避のために拮苗木を使用する
- 苦土石灰を施用し、基肥を施用する

②植えつけ

- 株間 40 ~ 45cmを目安とし、拮木部分を埋めないように植えつける

③整枝・誘引

- 1本仕立てとし、わき芽は小さいうちに手で摘み取る
- 各果房 4 ~ 5果を目安に着果させ、奇形果、病虫害被害果は摘果する
- 目標収穫果房(多くて8段まで)の上2枚を残して摘心する

④かん水

- 強草勢防止のため活着後から1段果房着果期頃までは控えめにし、果実が小指大になった頃から多めに行なう

ワンポイント

- 尻腐れ症は、乾燥多窒素によるカルシウム吸収不良

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥				備 考
		①	②	③	④	
苦土有機入り化成特A801	150g	20g		20g		
IBS1号			20g		20g	
苦土石灰	150g					

※1回目の追肥は、第1果房が10円玉~500円玉くらいの大きさの時に施用するが、草勢が強すぎる場合は、かん水のみとする

※2回目以降の追肥は、第3果房開花時、3回目の追肥は第4果房開花時、4回目の追肥は第5果房開花時に施用する



ピーマン

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												

● 種まき ○ 植えつけ ※ 収穫

育て方のポイント

育苗期(1番果開花前) 昼間25～30度 夜間20度
以降生育適温 20～25度

①畑の準備

- 長期にわたって栽培するが、根が細く弱いので、排水の良い肥沃な土壌を選ぶ
- 果実を多く成らせ、木に負担をかける為、多収には堆肥の施用が必要である
- 過湿に弱く根が伸びる為、地下水の高いところは高畦にする
- 植え付け後すぐに活着し、肥料を吸収できるよう、基肥は定植1週間前までに施す

②植えつけ

- 5月上旬以降に植える 早植えは生育を著しく遅らせるため行わない
- 定植は畝幅180cm、株間60cmで浅植えにする

③マルチング

- 黒マルチを敷き、雑草を予防する 夏場は高温予防の為、わらを敷く
- 地温は15度を確保する

④支柱立て

- 植え付け後、株の固定と側枝を支える為、長さ180cm程のカラー鋼管を用い支柱を立てる

⑤整枝・誘引

- 1番果のある分枝部から下位のわき芽は、早めに取り
- 枝は最初2つに分かれ、以降も2つつ分岐していく 枝は4本仕立てとする
- 徒長した細い枝はかきとる

ワンポイント

- 開花から約20日前後で果実が収穫できる 収穫果が多い為、見残しのないようにする
- 高温時、乾かん水不足が続くと、尻腐れ果が発生しやすいので、畝間灌水を行う
- 肥料不足・灌水不足になると形状の悪い果実が多く出来る為、たえず肥料を効かせてマメに灌水する
- 奇形果(曲がり果や石果)は、見つけ次第除去する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	100g	40g	
苦土石灰	120g		
コンポストエース	3kg		

※6月中旬頃に、第一回の追肥を施用し、その後草勢を見ながら、2～3週間ごとに散布する
※7月～8月の高温期はかん水を充分行う

植えつけ

十字または円形に穴をあける

早めに黒マルチを敷く
(雑草防止と地温の確保)

排水の悪い所は高畝にする

地温は15度以上が理想

追 肥

草勢を見ながら収穫初め頃から2～3週間間隔を目途に穴肥やうね間に施す

管 理

敷きわらと秋雨明けからの灌水で夏の乾燥を防ぐことがたいせつ

4本支立て

この間のわき芽は早めに除去する

同じ番号のものはだいたい同じ時期に着果してきます

障害果

日焼け果
夏場に多い
強い光が当たる為

黒くもれ斑がある
しり腐れ果
カルシウム欠乏症
水分不足で夏場に多い

小さく形が変形している
変形果
1番果又は草勢低下時に多い
摘果する



ナス

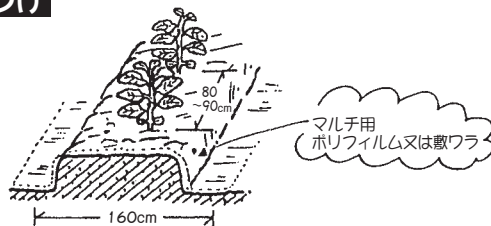
作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												

○ 植えつけ ■■■■■ 収穫

植えつけ

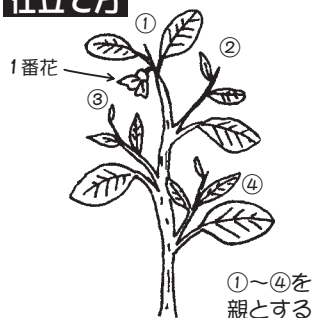


植え木部分に
一生土をかぶせない



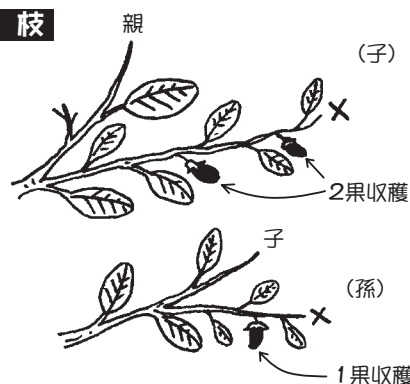
マルチ用
ポリフィルム又は藁ワラ

仕立て方



①~④を
親とする

整 枝



右と左の段違い

×

○

肥料不足の葉は左右対称

摘 葉

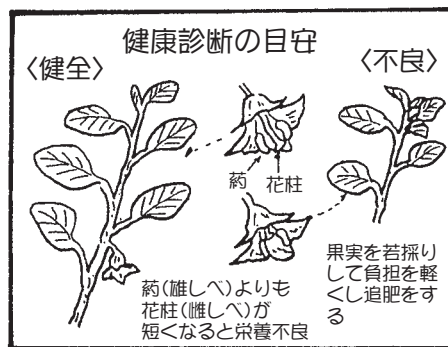


1枚



0枚

半分以上変色していれば
0枚として考える
(摘葉しても良い)



育て方のポイント

生育適温 8-17 ~ 25-38℃

- ①畑の準備
 - 苦土石灰と基肥を畑に施用する(同時施用しない)
- ②植えつけ
 - 接木苗を使い、株の間隔を80～90cm空けて植える
 - 接木部分を土に埋まらないように植え、土壌が潤うほど水をかける
- ③仕立て方
 - 葉と茎の間から発生する枝(わき芽)を1番花から下に3本残し主枝と合せ4本仕立てとする
- ④整 枝
 - 4本の主枝(親)から発生した枝(子)には2個収穫し、2個目収穫時に上の葉をのこし摘心する 子の枝が発生した枝(孫)には1個収穫する
 - 主枝の摘心は、自分の手のとどく高さまで成長した時に行う

ワ ンポイント

- 摘葉は元気な葉のみ2日に1枚以内とする 取りすぎると早熟が弱くなる
- 肥料や水が不足すると、皮が硬くなったり、実の太りが不良となる

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	160g	※40g×数回	
苦土石灰	150g		
コンポストエース	2kg		

※追肥1回目は第1花が太り始めに、1回目の追肥を行い、その後草勢を見ながら2週間に1回行います

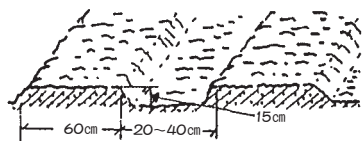
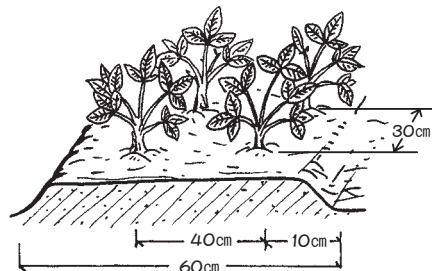


イチゴ

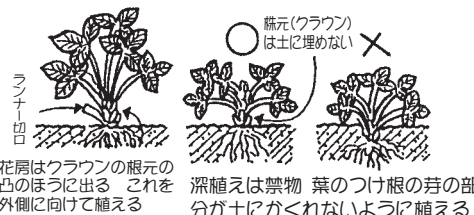
作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル栽培												

○ 植えつけ △ トンネル被覆 ※ 収穫

植えつけ



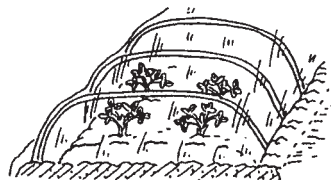
耕したあと畝をつくる 高うねが良い(15cmくらい)



花房はクラウンの根元の凸のほうに出る これを外側に向けて植える

深植えは禁物 葉のつけ根の芽の部分が土にかくれないように植える

トンネル被覆



有孔ポリを使ってトンネル被覆をする(翌春雪どけ後)
日中の気温は25℃を目安にすそ換気する
4月下旬頃から白カンレイシヤに切り換える

追 肥



追肥1回目は定植後20～30日を目安にする 2回目は翌春雪どけ後、施す

下葉がき



株元の老葉や枯れ葉を入念にがき取る

収 穫



朝もぎイチゴの味は格別!!



開花中に筆の先で雌しべに花粉をつけてやると変形果が少なくなる

育て方のポイント

生育適温 18～20℃
イチゴの肥大適温 17～20℃

①畑の準備

- 定植前までに石灰と堆肥を施し、耕しておく(ただし、石灰と堆肥は同時施用しない)
- 石灰と堆肥を施し、耕した後、基肥を施して深く耕し、十分土になじませる

②植えつけ

- うね幅80～100cmとし、2条植え、株間30cm、条間40cmに定植する
- 根元のふくらんだ部分(クラウン)を土の中に埋め込まないように定植する
- 10月上旬までに定植する

③摘 葉

- 雪どけ後に、前年の古葉や枯葉、病葉を取り除く

④摘 花

- 果実の発育をよくするために果梗が細くて、ツボミが小さいものを摘み取る

ワ ンポイント

- 植えつけは苗の向きをよく確かめて、花房が外側に向くように植えると果実が通路側になり、収穫が便利になる
- 12月10日頃までに本葉8枚、クラウンの大きさ1cm程度を確保する
- 雪どけ後に6枚の本葉を確保するため、不織布をべた掛けしておくとうよい
- 不織布は雪どけ直後に除去する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	80g	20～30g	10月下旬に第1回追肥(20g) 2月中旬に第2回追肥(30g)…雪どけ後
苦土石灰	120g		定植前までに全面に散布し、土とよく混ぜる
コンポストエース	2kg		

やさしい 野菜づくり



スイートコーン

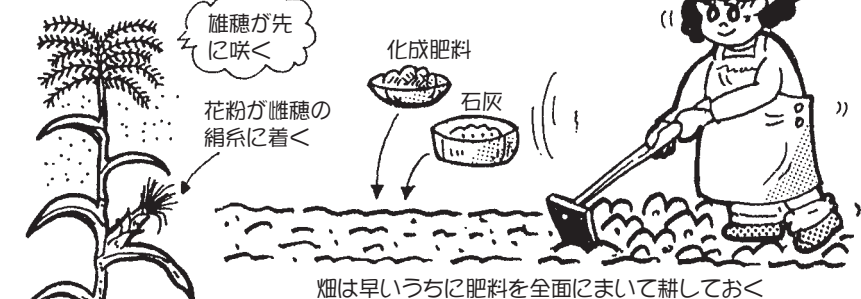
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

露地栽培



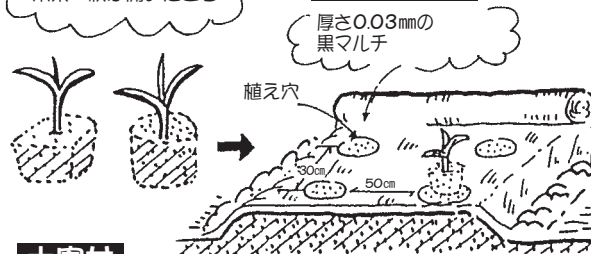
●種まき ○植えつけ ■収穫

畑の準備



セル苗を使う場合は
本葉2枚が開いたころ

植えつけ

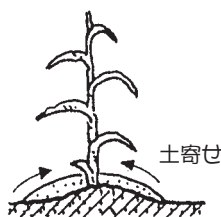


収穫



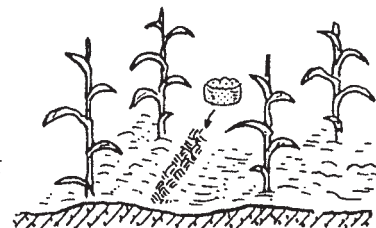
土寄せ

追肥したあとで株元へ
土寄せをする 直播き
をした場合は、やらな
くてもよい



追 肥

化成肥料を列の片側にばらまく



育て方のポイント

発芽適温 25～30℃
生育適温 22～27℃

①畑の準備

- 草丈が高くなっても倒れないように根が深く伸びるので、深く耕し排水の良い肥沃な所を選ぶ
- 定植前までに石灰と堆肥を施す(ただし、石灰と堆肥は同時施用しない)、肥料を施す
- うね幅は90cmで、やや高うねに仕立てる
- あらかじめ、うね全面に黒マルチを被覆すると地温上昇による生育促進と雑草の発生防止効果がある

②植えつけ

- 植えつけ2～3日前にポットの底穴から出る根を切っておくと、細根発生が多くなり活着が進む
- 30cm間隔で2列、列の間を50cm程離して植える
- 子葉まで植えない

③管 理

- 乾燥が激しい時は開花期と成熟期にうね間灌水を行う
- 大玉を収穫するために上から4葉目か5葉目の房を残し、他は小さいうちに取り除く

④収 穫

- 受精してから3週間くらい、立ち毛が茶色に枯れ、外から触って手ごたえがあれば収穫する

ワ ンポイント

- 1条植えより2条植えの方が受粉しやすい
- 下から分けつした枝は倒伏を防ぐ効果があるのでかきとらない
- 雄穂の出穂直前からアワノメイガの防除をする

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	120g	60g	本葉6枚頃に第1回追肥を施し、その後草勢を見ながら雄穂出穂直前に施用する
苦土石灰	150g		
コンポストエース	2kg以上		

J A

やさしい 野菜づくり



オクラ (わい性品種)

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培					●	○	■	■	■	■	■	■

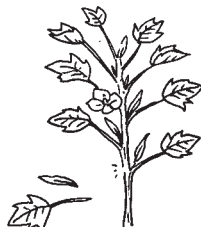
(育苗ハウス)

●種まき ○植えつけ ■収穫

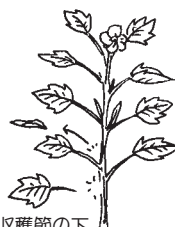
葉かき

草勢が強い場合

草勢が弱い場合



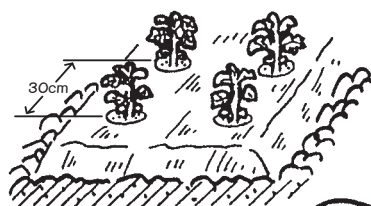
収穫と同時に同じ
節位の葉をかく



収穫節の下
2~3葉残す

植えつけ

- 植えつけ前までに畝をつくり、ポリマルチをして地温を高めておく
- 植え付けは1穴2株を植え付ける

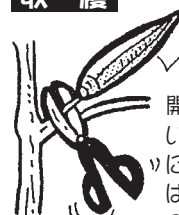


管 理



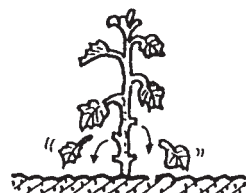
夏の乾燥や昇温を防ぐために
株元へ敷きわらをする

収 穫

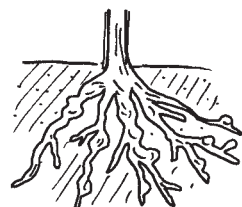


開花後7~10日くら
いで果長が7~10cm
になったとき 手
では折れないのでさ
みて切り取る

センチュウ害

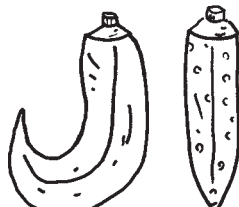


小さいとき下葉が落
ちるのは早植えや低
温によっておこる
ポリマルチをするこ
とにより軽減できる



いつまでも株が成長せず、
引き抜いてみると根につ
ぶが付いている

生理障害果



曲がり果

いぼ果

樹勢が弱ってくると発生する

育て方のポイント

生育適温 25~30度 最低気温 15度

①畑の準備

- センチュウがつきやすい作物なので連作は避ける

②植えつけ

- ポリマルチに植え穴を開けて、1穴2株株間30cmに植えつける
- 低温に弱い為、5月中旬以降に定植し早植えはしない

③管 理

- 第一花の開花から追肥を行う、開花以前から追肥を行うと葉や木のみが大きくなり実が成りにくくなる
- 7月~8月は乾燥による草勢の衰えや、曲がり果など品質が低下しやすいので通路に灌水すると共に、高温対策に敷きわらを施す
- 摘葉は通気性や採光を良くする為、展開葉(25cmの葉を1枚とする)3~4枚を残し後は除去する
- 収穫の最盛期は開花して3~4日で収穫できるので、見残しのないようにする
- 萎んだ花がいつまでもオクラに付いたままの時は、出来るだけ手で取る

ワ ンポイント

- 活着後、オクラに白い粒が見られるが生育には問題はない
- 7~10cmで収穫する それ以上大きくすると、筋っぽく硬い
- 収穫したばかりのオクラは硬い毛に覆われている為手もみして食べて下さい

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	80g	20g	以降、2週間に1回追肥を行う
苦土石灰	100g		

※追肥1回目は第1花が開花時に、以降半月に1回通路に散布する

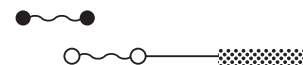
※圃場の乾き具合を見て灌水を充分に行う



エダマメ

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培



●種まき ○植えつけ ■収穫

育て方のポイント

①畑の準備

- 苦土石灰、基肥を施して耕す
- 排水の悪い圃場ではうね立てをする
- 地温上昇と雑草抑制をねらいマルチを被覆する

②植えつけ

- 定植は株間10cm、条間20cm、2条植えとする
- 根を乾かしたり、切らないように注意して植える
- 定植後の活着をよくするためにかん水を行う

③管 理

- 本葉6枚展開したら7枚目を摘心する
- 開花・着莢期の土壌養水分が収量に影響するのでかん水、追肥を行う
- 土寄せは草丈が20cmの頃に軽く、開花期に追肥と併せ再度行う

④収 穫

- 収穫は開花後35～40日を目安とする
- 実のふくらみが目立ち、莢を押さえると実が飛び出す頃が適期

ワンポイント

- 開花・着莢期の土壌養水分の確保は重要である
- 窒素過多になると着莢が悪くなるので草勢を見て追肥を加減する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	50g	35g	
苦土石灰	100g		

※追肥は開花期に行う
莖葉が徒長気味の場合は控えめにする



定植苗



収 穫

実のふくらみがめだち、さやを押さえると実が飛び出すころが適期

〈収穫時の姿〉



摘心によりよく伸びたわき芽にもよくさやが着き、空さやが少なく、よく実が入っている

土寄せ

草丈が20cmくらいになったころ、軽く土寄せする



摘 心

本葉6枚展開時に摘心して、わき芽の伸びを促す





エンドウ

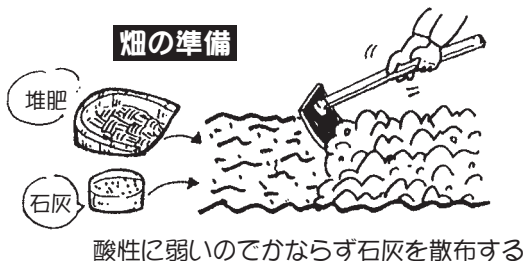
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

露地栽培



○ 植えつけ 収穫

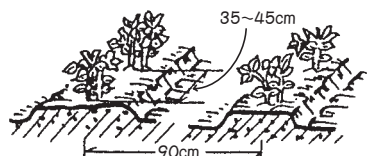
畑の準備



植えつけ



栽植距離



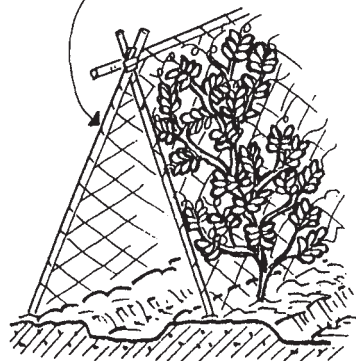
追 肥



開花始め頃株のまわりに化成肥料をまく

支柱立て

目の粗いネットを張ってつるをからませてもよい



収 穫

絹さや種は、粒が大きくならないうちに、実エンドウ種は粒が肥大してから収穫する



育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 連作を嫌う作物なので、必ず3～5年エンドウを作ったことのない畑を選ぶ
 - アルカリ土壌を好むのであらかじめ石灰を踏み込んでおく
 - 排水の悪い圃場は高さ20cmの高畝にして、排水を良くする
 - 畝幅は、90cm(1条植えの場合)とする
- ②植えつけ
 - 株間は35～45cmで1～2本植えとする
- ③支柱立て・誘引
 - 草丈が30cm位に伸びる前に支柱を立てる
 - 1本植えは8本仕立て、2本植えは6本仕立てとする

ワ ンポイント

- 株元まで日を十分に当てるように、実を収穫したわき芽は摘心する
- 開花始めと収穫期に上からかん水する
- 播種は、11月5～10日頃とし、1穴2～3粒播きで雪融け後1～2本にする 草丈が10cmくらいで越冬させるといい

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥				備 考
		1回	2回	3回	4回	
苦土有機化成特A801		30g	30g	30g		
固形30号	140g					
苦土石灰	140g					
コンポストエース	3kg					



※追肥は、開花始めに1回目、その後20～30日後に2回目を施用する



千石豆(フジマメ)

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

露地栽培

マルチ



●種まき ○植えつけ △トンネル被覆 ※収穫

育て方のポイント

発芽適温 18～24℃(地温)
生育適温 13～28℃

①畑の準備

- 酸性土壌に弱いのであらかじめ苦土石灰を施す
- 日当たりの良い場所を選び、高うねにして排水を良くする
- うね幅120cm、条間40cmとする(2条植え)

②種まき

- 地温を確保する為、播種する前にマルチで被覆する
- 株間40cm間隔に1ヶ所3～4粒ずつまき、種が飛び出ない程度に覆土する

③間引き

- 本葉2～3枚頃までに1本に間引きする

④支柱立て及び誘引

- 支柱立ては根を傷つけるので、根が張る前に立てる
- 支柱を用意し、向かい合わせて斜めに2本交錯させて立てる(合掌式)

⑤整枝・摘心

- 子づるの3葉目の大きさが約5cmになった頃に摘心する
- 親づるが支柱の高さに達したら、支柱の高さで摘心する

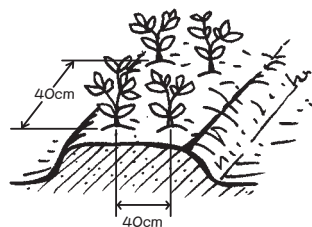
ワンポイント

- 収穫は開花後10～14日ごろの若い莢を収穫する
- 収穫時に整枝・摘葉を行うとよい

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	70g	30g	開花始めに第1回追肥を施し、その後草勢を見ながら施用する
発酵鶏ふん	300g		
苦土石灰	150g		
コンポストエース	2kg以上		

植えつけ



畑の準備



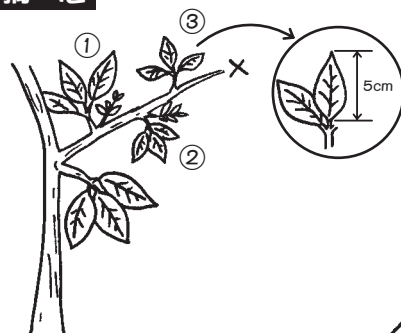
酸性に弱いのでかならず石灰を散布する

追 肥



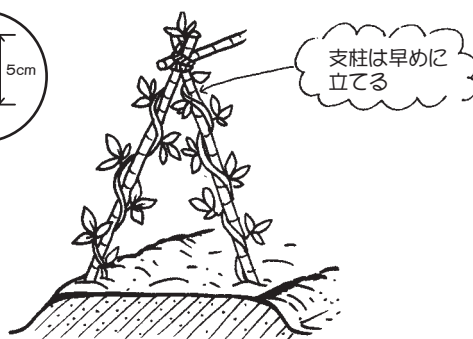
開花はじめのころ、株のまわりに化成肥料をまく

摘 心



子づるの3葉目の大きさが5cmになった頃、摘心する

支柱立て



支柱は早めに立てる

やさしい 野菜づくり



キャベツ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
初夏どり				●	○		■					
秋冬どり								●	○	■		

● 種まき ○ 植えつけ ■ 収穫

育て方のポイント

生育適温 15～20℃(前半20℃、後半15℃)
23℃を超えると生育抑制、28℃を超えると生育停止

①畑の準備

- 作付予定地は、石灰をまいて耕しておく
- 活着をよくするために、定植前に畑を湿らせておく

②種まき

- 直播きでは、生育が揃いにくいのので自家育苗又は購入苗がおすすめ！

③植えつけ

- 定植前に苗へ充分、灌水する
- 本葉4～5枚の頃に定植する
- 株間は40cm程度を目安とし、早生種は狭く、晩生種はやや広くとる

④管 理

- 追肥は、結球開始期までに2回に分けて施す
- 植え付け後は、害虫防除のための寒冷紗等の被覆が有効

ワ ンポイント

- 水を好む植物のわりに湿害を受けやすいので注意
- 葉に時折みられる紫の色素はアントシアンの発生(低温、乾燥、肥料切れが原因)
- 根こぶ病の発生回避のためにCR系の品種を使用すると良い
- 基肥が多いと下葉が大きくなりすぎ腐敗病やナメクジが発生しやすい

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	150g	50g	50g	
苦土石灰	100g			
コンポストエース	2kg			

※追肥1回目は、植え付け2週間後に株元に使用し、2回目は結球開始前にうね肩に施す

葉の枚数が多く、
かたく締まっているのが
球の中心が硬い状態



健 全

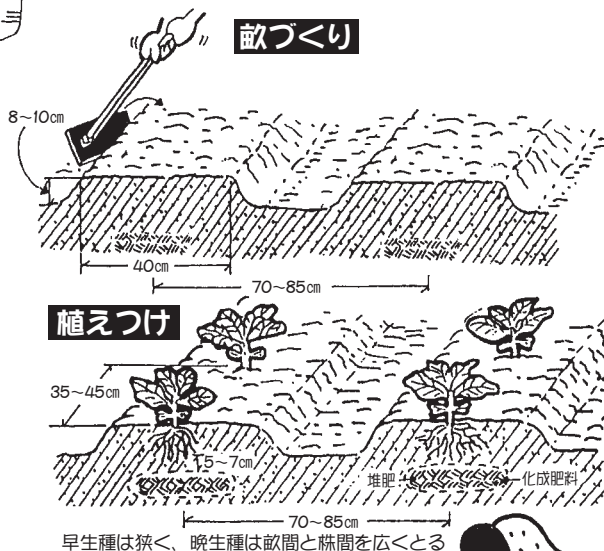


つ ぼ ち



つ ぼ ち

秋まきのはあい、品種とまきどきの関係が適切でなかったり、あまり秋のうちに生育が進みすぎたりすると、とう立ちすることがある

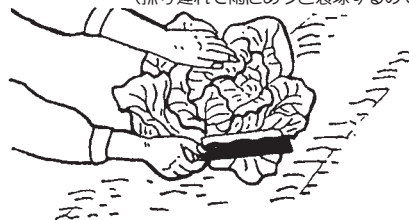


灌 水



収 穫

手で押さえてみてかたく締まってきたら収穫する
(採り遅れて雨にあうと裂球するので注意)



病虫害防除



春秋にはかならずといってよいほど発生する
早いうちに捕殺する



やさしい 野菜づくり



ブロッコリー

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋冬どり							●	○	■	■	■	■

(早生) (中生) (晩生)

● 種まき ○ 植えつけ ■ 収穫

畑の準備



前作を早めに片づけ石灰を散布して、20～30cmの深さによく耕す!!



植えつけ



早生種は狭く、晩生種は広く!

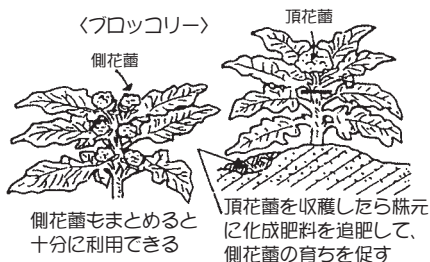
追肥・土寄せ

第1回めは株のまわりに



第2回は、畝間に生育中に追肥・土寄せをする

管理・収穫



側花蕾もまとめると十分に利用できる

頂花蕾を収穫したら株元に化成肥料を追肥して、側花蕾の育ちを促す

育て方のポイント

定植時生育適温 20℃ 花蕾生育適温 15～18℃
以降生育適温 18～20℃

①畑の準備

- 植えつけ予定の一週間前に、畑前面に苦土石灰を散布し、深く耕す
- 堆肥と基肥を施し、畝作りをする

②種まき・植えつけ

- 種まきは1穴3粒とし、種子が見えない程度に(約2～3mm)に覆土する
- 植えつけの間隔は40cmにする
- 深植えとならない様子に注意をする
- 植えつけ前に、苗に充分灌水する
- ポリ鉢2寸鉢で、本葉3～4枚の時に定植し、3寸鉢なら4～5枚で定植する

③管 理

- 暑い時期の定植の為、灌水不足に注意する
- 定植して35～40日頃から葉の散が増えてくる、その時に肥料を効かせるようにする

ワンポイント

- ヨトウムシ・コナガなど葉を食害する害虫が多い為薬剤散布を心がける
- 肥料を切らすと花蕾の小さい物になるので、肥切れを起こさないようにする
- 吸肥力が強い為、茎の中心部が空洞になる事があるが、品質には問題はない
- ネコブ病の発生回避の為、CR品種の栽培が良い

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥			備 考
		①	②	③	
苦土有機化成特A801	200g				
鶏 糞	300g				
苦土石灰	120g				
コンポストエース	3kg	40g	40g		

※第1回は定植後、2週間目、2回目は約1ヵ月後に施用する



ハクサイ

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

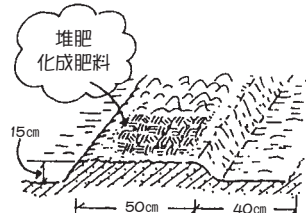
秋どり



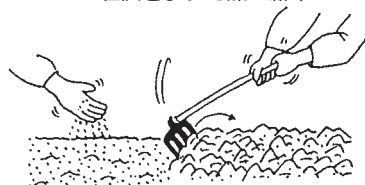
●種まき ○植えつけ ■収穫

畑の準備

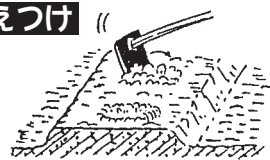
植えつけの半月以上前に畑全面に石灰をまいて深く耕す



畝全面に20cmくらいの深さに肥料を鋤き込む



植えつけ



植え穴を掘って苗を植えつける



追肥

〈第1回追肥〉



本葉10枚くらいのころ、畝の肩、通路に肥料をまく

〈第2回追肥〉



結球が始まり葉が立ってきた頃畝間に肥料をまく

収穫

頭を押さえてみて
かたく締まっている
ようなら、収穫
してもよい



育て方のポイント

①畑の準備

- 早めに苦土石灰を散布し、深く耕しておく
- 堆肥や肥料を全面に散布し、鋤き込む

②植えつけ

- 極早生種の株間は35cmとし、晩生種ほど株間を広げ(35→50cm)、やや深めに植えつけ十分かん水する

③管理

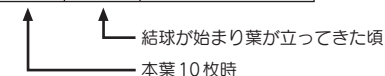
- 追肥は結球期までに終わらす

ワンポイント

- 根こぶ病抵抗性品種(品種名にCRがついている)を用いた方がいい
- 軟腐病対策のために、本葉4枚までは葉を大きくしない

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備考
		1回	2回	
苦土有機化成特A801	200g	70g	70g	
苦土石灰	120g			
コンポストエース	2kg			



※1回目の追肥は本葉10枚くらいのころ、畝の肩に、通路に肥料をまく
2回目は、畝間(通路)にまいて、葉が巻く前に追肥は終わらす

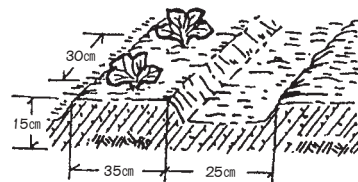
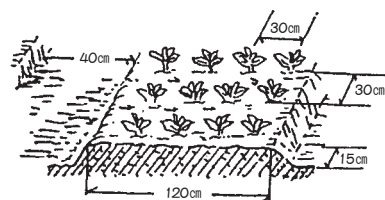


レタス

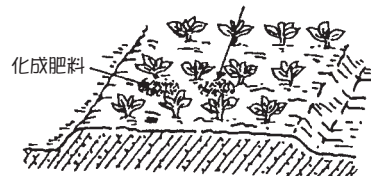
作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき栽培				●	○	■						
夏まき栽培							●	○	■			

● 種まき ○ 植えつけ ■ 収穫

植えつけ



肥料は株間に施す



追 肥

肥料はベッドの肩に施す



病害虫防除

アブラムシや菌核病が発生しやすいので薬剤散布を入念に!



収 穫

サラダナは中心の葉が巻いてきたら収穫する



玉レタスは、頭を押さえて、球がかたく締まったころ収穫する

品種選び

サラダナ リーフレタス 玉レタス



育て方のポイント

発芽適温 15～20℃
生育適温 15～20℃

①畑の準備

- 定植前までに石灰と堆肥を施し、耕しておく
(ただし、石灰と堆肥は同時施用しない)
- 石灰と堆肥を施し、耕した後、基肥を施し、耕す
- うね高は15cm程度とする

②植えつけ

- 本葉3～4枚頃に定植する
- うね幅は60cm程度とし、1条植え、株間30cmに定植し、十分に灌水する(玉レタス)
- うね幅は160cm程度とし、4条植え、株間30cm、条間30cmに定植し、十分に灌水する(リーフレタス、サラダナ)

③管 理

- 雑草防除と保温を兼ねて、うねをマルチで被覆する
- 生育初期は、土壌水分がやや多い方が良好なので、乾燥しないように灌水する

ワ ンポイント

- 夏まき型の場合は、夕方に植えつけを行うほうが活着は良い
- 結球異常は養水分不良時に多い
- 結球期は低温(0℃以下)、高温(20℃以上)に弱い

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	160g	50g	追肥は、定植後20日頃に施す リーフレタスは追肥しなくてよい
苦土石灰	120g		定植前までに全面に散布し、土とよく混ぜる
コンポストエース	2kg		



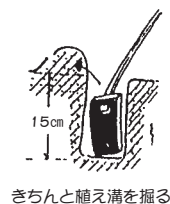
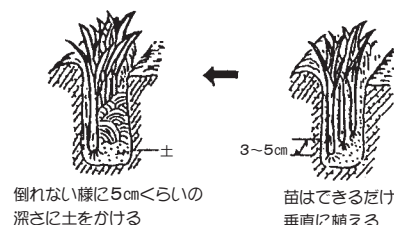
ネギ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき秋冬とり						○	○	○	○	○	○	○
秋まき夏とり				○	○	○	○	○	○	○	○	○

●● 種まき ○○ 植えつけ ■■■ 収穫

植えつけ

植え溝掘り



追肥・土寄せ



肩の部分に肥料を施し、土と混ぜながら溝へ落とす

収穫



緑の葉の下部まで埋めるくらいに十分に土を寄せる
最終回は、収穫の30~40日前

育て方のポイント

発芽適温 15~25℃

① 種まき(秋まきのみ)

- 育苗箱などに、床土を表面が均一になるよう入れる
- 種はバラまきで、薄く均一になるようにまき、種が露出しないように土で覆う
- 覆土後、灌水を行う
- 発芽後は乾燥しないように丁寧に灌水する

② 畑の準備

- 植え付け前に、石灰、堆肥、基肥を施用し、耕起しておく
- 植え付け前日に、幅15cm、深さ15cmの植えつけ用溝を掘っておく

③ 植えつけ

- ①で育てた苗を②の植えつけ用溝の片側に、株間3~5cmで真っ直ぐになるように並べ、土を入れる
- 土を入れた後、灌水を行う

④ 土寄せ

- 1回目の土寄せは植え付けから約1か月後に、追肥をまけた土を溝に入れる
- 2回目はその約1か月後、3回目はさらに約1か月後に、1回目と同様に行なう
- ※土寄せは緑色の葉の分岐点より上に土を入れない
- 最後の土寄せは収穫の約1か月前に、緑葉の分岐点が隠れる位に行なう

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	120g	30g×4回	
苦土石灰	100g		
コンポストエース	2kg		

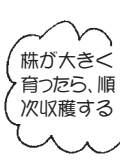
収 穫

葉ネギ

苗づくりは根深ネギに準じる

追 肥

植えつけ





シュンギク

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

露地栽培



● 種まき ■■■■■ 収穫

育て方のポイント

①畑の準備

- 早めに石灰を施し、耕しておく
- 平畦を基本とするが排水不良畑では畝を高くする

②種まき

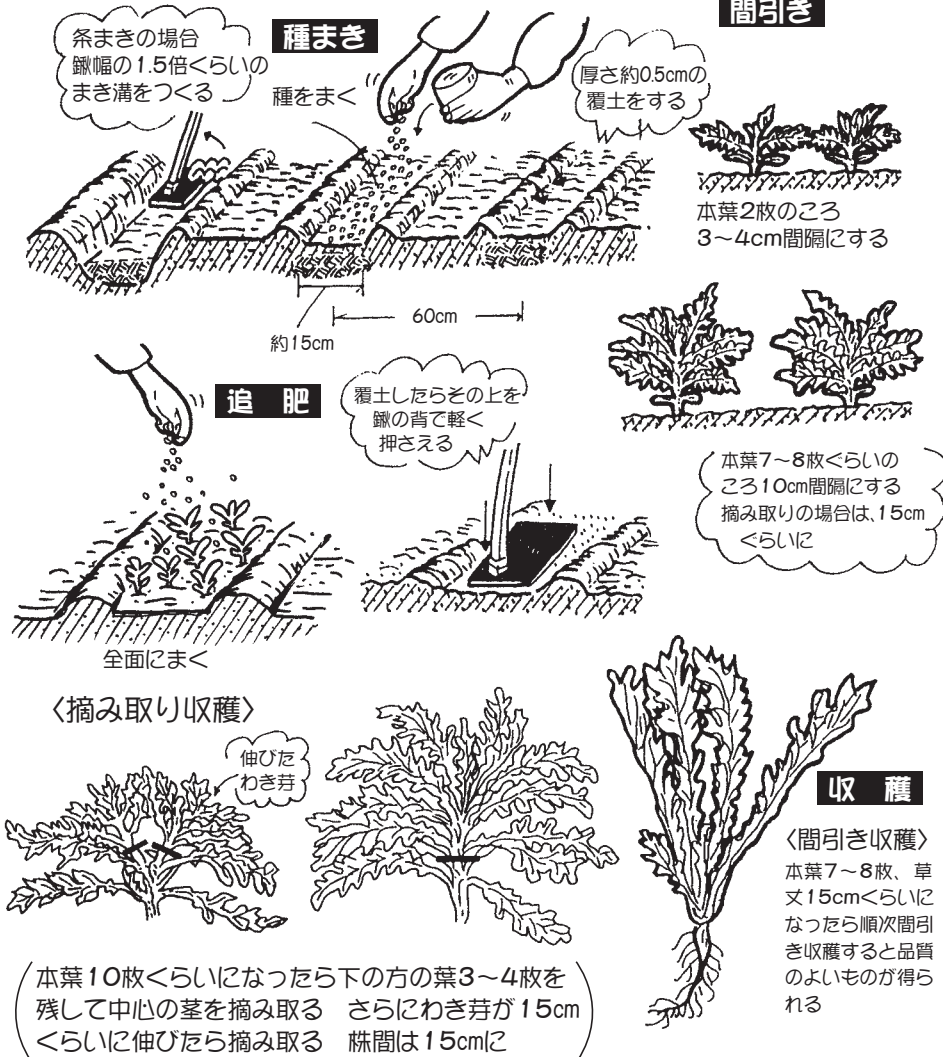
- 平にした苗床にかん水した後、種まきをし、厚さ0.5cmほど覆土をする
- 不織布でべた掛けをすると、発芽揃いが良くなる

③間引き

- 本葉2枚の頃3～4cm間隔に本葉7～8枚の頃10cmの間隔に間引く(摘み取り収穫は15cm)

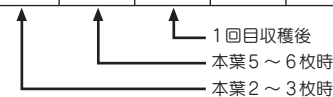
④収 穫

- 間引き収穫は本葉7～8枚、草丈15cmくらいになったら順次間引き収穫する
- 摘み取り収穫は本葉10枚くらいになったら、下の方の葉を3～4枚を残して中心の茎を摘み取る さらにわき芽が15cmくらいに伸びたら摘み取る



施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥				備 考
		1回	2回	3回	4回	
苦土有機化成特A801	60g	120g	60g	60g		
苦土石灰	120g					
コンポストエース	2kg					





ミズナ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき					●	●	●	●	●	●	●	●
冬どり												

● 種まき ■■■■■ 収穫

育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 生育適温は15℃～20℃である
 - 種まきの一週間前くらいまでに基肥を施して耕起しておく
 - 4条まきでは、うね幅100～120cmくらいでうね立てする
- ②種まき
 - 株間35～40cmとし、1カ所に5・6粒の種をまく
- ③管 理
 - 出芽後から2～3回間引きをして、本葉4～6枚頃に最終的に1本とする
- ④収 穫
 - 好みの大きさに収穫するが、一般的には草丈40cmくらいまでに収穫する

ワンポイント

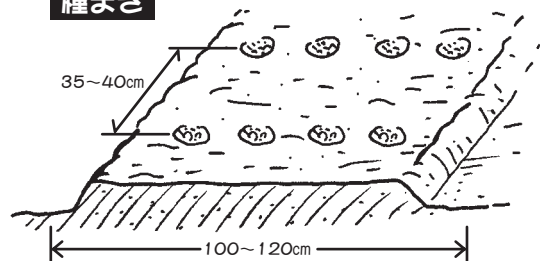
- 株の充実期までは灌水を控えめにし、それ以降は株の肥大に合わせて量を増やしていく
- 作型事例以外の時期にも栽培可能である

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	150g	40g	
苦土石灰	100g		
コンポストエース	2kg以上		施用が望ましい

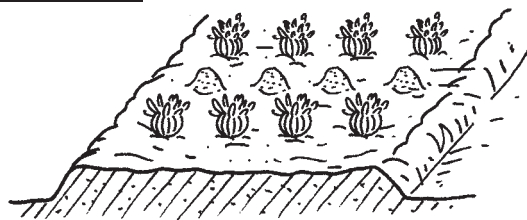
※冬どりのみ播種30日後追肥をやる

種まき



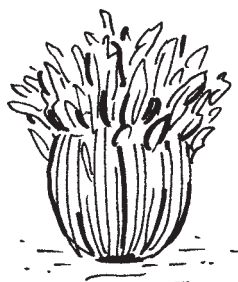
4条まきとし、株間を35～40cmで1ヶ所に5～6粒まく

間引き・追肥



間引きは収穫までに2～3回行う
追肥は株間に施す

収 穫



草丈40cmくらいまでに
株元から切り取る



ホウレンソウ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培					●	■		●	■			

● 種まき ■ 収穫

育て方のポイント

生育適温 15～20℃

- ①畑の準備**
 - 苦土石灰と基肥を畑に施用する(同時施用しない)
- ②種まき**
 - 収穫までの期間が短い野菜なので、播種日をずらす事により長く収穫できる
 - 畝立て後、すじ蒔きし、灌水を行う
- ③間引き**
 - 1回目は本葉1～2枚の時に2～3cmにし、2回目は本葉が3～4枚時に5～6cmごとに1株になる様に、間引きを行う
葉の奇形な物や色の薄い物から間引きを行う
- ④収 穫**
 - 葉の長さが20～25cmになった物を収穫する

ワンポイント

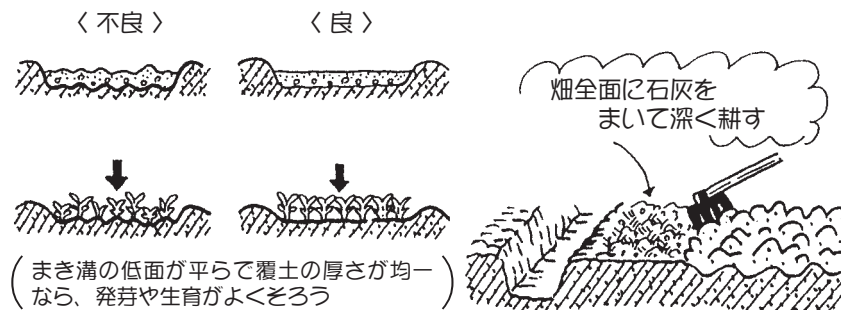
- 日が長くなると『とう立ち』しやすいので春蒔きは早めの収穫を心がける
- 酸性の土壌に弱いため必ず苦土石灰を施用する(土壌酸性度は6.3～7.0が良い)
- 気温が25℃を超えると発芽不良となる
- 収穫前1週間～10日間、しおれやすくするため、かん水をひかえる

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	150g		
苦土石灰	150g		
コンポストエース	2kg		

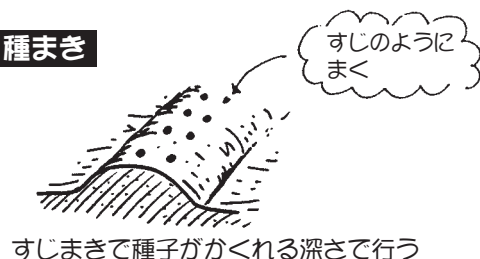
●堆肥(コンポストエース)を春蒔き時に施用した場合は、夏蒔き時に施用しない

畑の準備



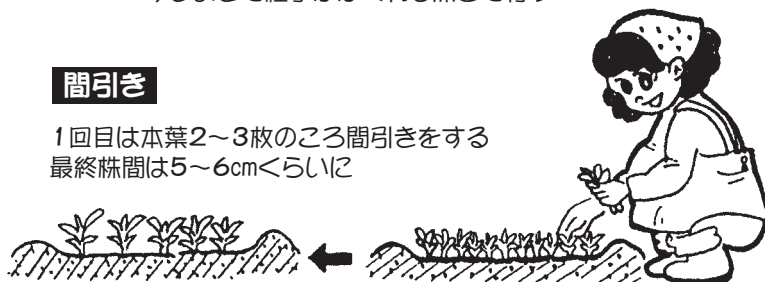
＜酸性＞ ＜中性＞

種まき



間引き

1回目は本葉2～3枚のころ間引きをする
最終株間は5～6cmくらいに





金時草

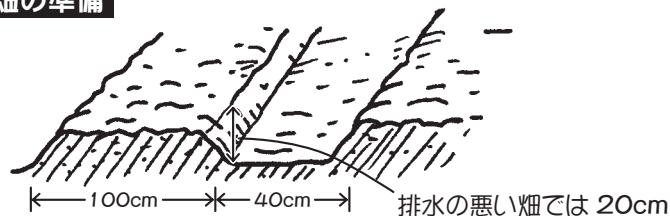
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培

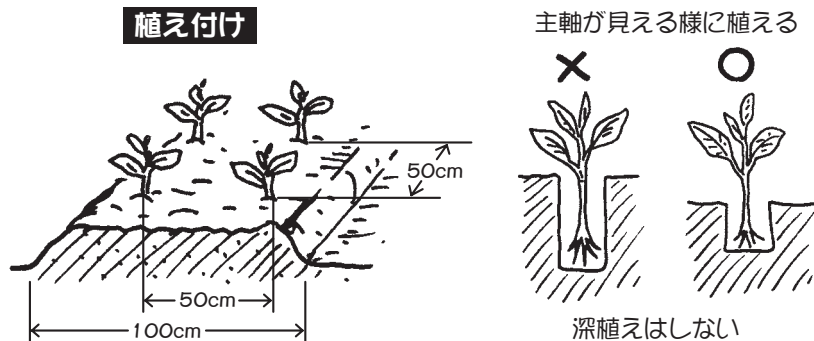


○● 植えつけ ■■■ 収穫

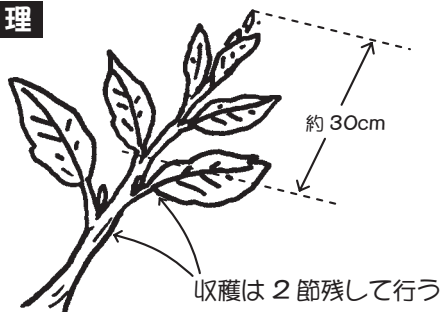
畑の準備



植え付け



管 理



育て方のポイント

生育適温 20～25℃

- ①畑の準備
 - 定植前に石灰、堆肥、基肥を施用し、耕起しておく
 - 排水の悪い畑では高うね(約20cm)とする
- ②植えつけ
 - 黒マルチをし、本葉4～5枚の苗をうね幅約120cm、株間約50cmで2条植えで行う
 - 深植えはしない
- ③管 理
 - 追肥1回目は定植から約50日後、その後は約1ヶ月ごとに行う
 - 生育温度が20～25℃のため、気温が25℃を超える頃になったら、マルチの上に敷きわらを行う
 - 収穫は定植から約60日後に、茎の長さが30cmほどに生長したら、2節残して収穫する

ワンポイント

- 株の貯蔵は土つきで貯蔵し、貯蔵温度を12℃前後とする
- 乾燥時の灌水は十分に行うこと
- 収穫は晴れた日に行い、霜が降りる11月頃まで可能(気温5℃で生育が停止)

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
苦土有機化成特A801	200g	40g	
苦土石灰	100g		
コンポストエース	2kg		

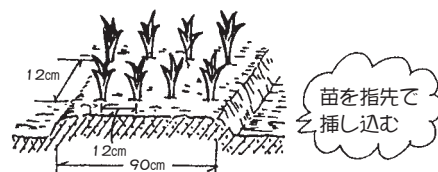
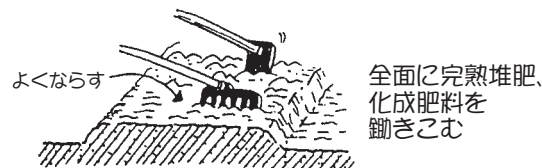


タマネギ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培									●	○		

● 種まき ○ 植えつけ ■ 収穫

基肥入れ・植えつけ



苗を指先で 挿し込む

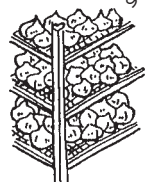
追 肥



2月上旬・雪解け後根が動いてから1回
その1ヶ月後に散布
その後は灌水のみで肥料はやらない

貯 蔵

葉が半乾きになったら、5球 ずつ束ねて振り分けにつるす



よく乾かして葉を切り取り、棚に広けてもよい



収 穫

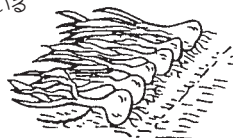


葉が7～8割倒れたころ、 天気のよい日を見計らっ て抜き取る

土寄せ



土が玉ネギの皮がかくれている 程度に鍬でかける
皮がむけると萌芽する のが早い為



抜きとったら、 半日そのまま 畑に並べて 乾かす

育て方のポイント

生育適温 15℃
12時間の日長で球肥大タマネギは行うようになる

- ①畑の準備
 - 肥料は通常の化成肥料の他、健全な生育を保つ為ケイフンを施す
- ②植えつけ
 - 種まきは定植の事を考え、9月10日までにを行う
 - 本葉2～3枚までに約3cm間隔に間引く
 - 植え付けは条間12cm 12cm間隔の4条で植える
 - 定植はしっかりと根を張らすため11月20日までにを行う (本年中に充分な根を張らせるため)
- ③管 理
 - 抽台防止の為、年越しまでに苗の太さを8～10mmまでに抑える
 - 追肥は雪解け後と3月下旬に行う
 - 4月に土寄せを行ったほうが良い
- ④収 穫
 - 収穫は葉が7～8割以上倒れたときを目安に行う
 - 収穫は晴れた日に行い、半日畑に並べて乾かす

ワ ンポイント

- 肥料が遅れたり多すぎたりすると、分球や青立ちする
- 分球：肥料が強すぎると発生しやすい

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥			備 考
		①	②	③	
苦土有機化成特A801	100g	20g	40g	40g	
鶏 糞	300g				
苦土石灰	100g				
コンポストエース	3kg				

※苦土石灰、鶏糞、堆肥は定植1週間前までに全面に散布し、土とよく混ぜる
※追肥は1回目2月下旬～3月上旬(雪解け後)、2回目は3月下旬に散布する

やさしい 野菜づくり



ジャガイモ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												

○ 植えつけ ※ 収穫

植えつけ

種イモ

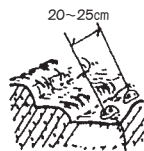
縦に切り各片に
芽が同じくらい
に着くように!!



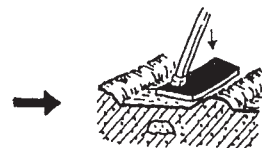
60～80gくらいの大きさなら
2つに切り、さらに大きいもの
は、3～4つに切る 芽を2～
4個つける



切り口は下に
向ける 上に
向けると発芽
までに腐りや
すい



種イモを
配置する



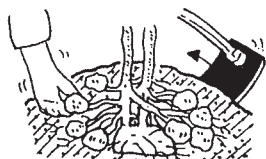
種イモの上に5～6cm
土をかけ、軽く鍬で
押さえる

芽かき

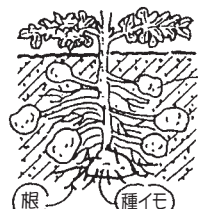


勢いのよいものを2本を残して
他は取り除く 種イモを引き
上げないよう株元を押さえ斜
めの方向にかき取るとよい

収 穫

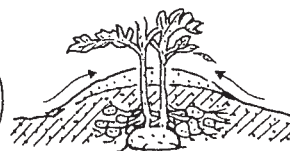


イモが肥大したら掘り掘りし、
初ものの味を楽しむ 完全に
肥大したころ鍬を入れて掘り
起こす



種イモの上方に伸びた
茎の先端が太ってイモ
になる

土寄せ



芽が15cmほど伸びたところとその
半月後の2回、土寄せを4～5cm
の厚さにおこなう 土寄せが足り
ないとイモの肥大を損ね、地上に
露出して緑化し、品質が悪化する

育て方のポイント

生育適温 18～23℃
イモの肥大適温 18℃

①畑の準備

- 植えつけ前に石灰を施し、15cm程度に耕起する
- 植え溝に堆肥、肥料を施用する

②植えつけ

- 小さいものはそのまま植え、大きい物は2～4個に切る
- 1片が30～40g程度の種イモを切り口を下にして植え付ける
- 切り口は、草木灰をつけて植えるか、切り口を日陰で乾かしてから植える

③管 理

- 草丈10cmになるまでに1株1～2本残し、他は芽かきする
その後5cmの土寄せを行う 2回目の土寄せはつぼみができた頃
10cmにする

④収 穫

- 茎葉が枯れ始めた頃に収穫を行なう

ワ ンポイント

- 極端な土壌乾燥は、空洞果(ほうそ欠乏症状)の発生原因となる
- 遅い追肥は、イモの品質低下と収量減につながるので注意!!!
- つぼみは、摘花しても収量はあがらないので取る必要はない

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	150g	50g	50g	
苦土石灰	100g			
コンポストエース	2kg			

※追肥1回目は、芽かき後に施用するほうが望ましい。2回目は草丈20cm頃
までに施用する

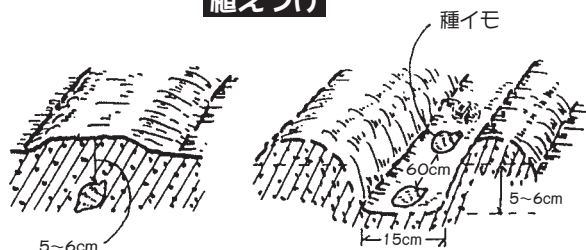


サトイモ

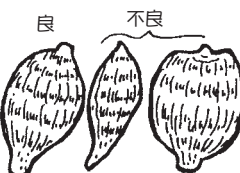
作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												

○ 植えつけ 収穫

植えつけ



種イモの準備



種イモはふつくらとして芽が傷んでいないものを選び、大きさは40~60gくらいがよい

土寄せと追肥

5月下旬から梅雨明けにかけて2~3回株のまわりに化成肥料をばらまき、これを埋めるように通路の土を株元に寄せる

土寄せ



子イモの芽が伸びていたら倒して土をかけるか刈り取る



収 穫



11月ごろ霜の降る前に全部掘り取る



8月ごろ親指大に肥大したら掘り取る

育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 植えつけの1週間前に石灰を施し、深く耕す
- ②植えつけ
 - 株間60cmとし頂部を上にして埋め込む
 - 覆土を5~6cm行い上から軽くおさえておく
- ③管 理
 - 乾燥に弱いのでたっぷりかん水する
 - マルチ除去後の土寄せの1回目は本葉3枚の頃に、2回目は本葉6枚時に6cm程度行い、3回目はていねいに深く行う
- ④収 穫
 - 草丈が95~100cmが収穫適期で、霜の降る前に全部掘り取る

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥				備 考
		1回	2回	3回	4回	
苦土有機化成特A801			70g	70g		
固形30号	100g	40g				
苦土石灰	150g					
コンポストエース	2kg					

7月下旬頃
本葉6枚時
本葉3枚時

※追肥は、土寄せ時に株の周りに肥料をばらまき、これを埋めるように土を株元に寄せる
※土寄せ時に側芽を埋めるか、刈り取る。もし、放任した場合、側芽が準親化し子芋が太らず品質も低下する



サツマイモ

作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培

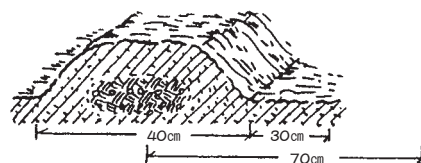


○ 植えつけ ✕ 収穫

植えつけ準備 苗を買い求める

畑の準備

基肥、苦土石灰を施し、土を盛り上げる
畝は高めにすることで通気をよくする



植えつけ



追肥

蔓の葉色が淡いようなら少量の化成肥料を
施す 窒素成分の効きすぎは蔓ほけになる
ので禁物!!



収穫

霜の降る前に晴天の
日を選んで収穫する



収穫のさいはイモに傷をつけない
よう鍬を入れ、蔓から離さないよ
うにして、ていねいに掘り取る

探り掘り収穫



早いうちは手で探
り掘りして初もの
の味を楽しむ

マルチ栽培

マルチを切っ
て苗を斜めに
挿す



育て方のポイント

- ①畑の準備
 - あらかじめ苦土石灰を施し、耕起しておく
 - 化成肥料を中心に施しやや高め(約40cm)のうねを立てる
- ②植えつけ準備
 - 苗は節間がやや詰まって、茎が太いものを選び
 - 早植えの場合はマルチをして地温を高める
 - マルチは6月中旬までに取る
- ③植えつけ
 - 風の強い日を選び、株間30cm～40cmで植える
 - 長い苗は舟底植え、短い苗は斜め植えにする
- ④管 理
 - 生育の様子を見ながら、必要な場合は追肥を行う 但し、効かせ過ぎるとつるボケになるので注意する
 - 追肥は行わないが樹が弱っている場合は6月一杯までに追肥する
- ⑤収 穫
 - 霜の下りる前、晴れた日に収穫する

ワンポイント

- つるの長さは2m以内になるように管理する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥	備 考
金沢甘藷専用肥料	80g	必要な場合	
苦土石灰	100g		

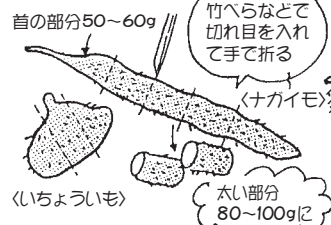


ヤマイモ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												

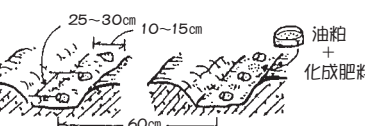
○ 植えつけ ■■■■■ 収穫

種イモの準備

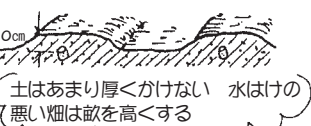


病害に冒されていない健全な種イモを手し、適当な大きさに分割する

ナガイモ

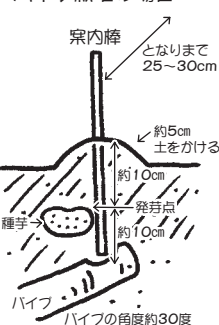


基肥として種イモと種イモの間に油粕・化成肥料を適量あてる



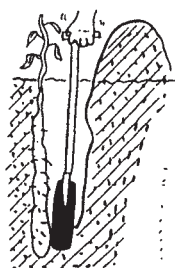
植えつけ

パイプ栽培の場合

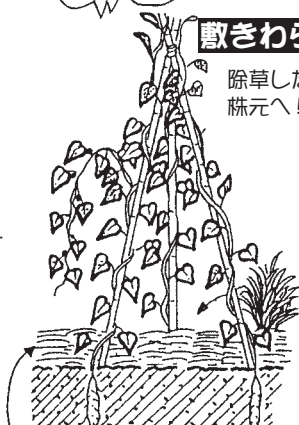


収 穫

イモに沿って深い穴を掘り、下の方を折らないようにしていねいに収穫する

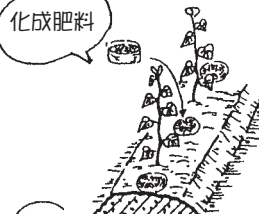


支柱立て 3~4本合わせて上で結び



敷きわら

追 肥



追肥は株の間にばらまく

いちょうイモ



育て方のポイント

- ①種いもの準備
 - イモを切断する 首の部分は小さめ50～60g、それ以下の太い部分は80～100gにする
 - 切ったイモは切り口が白くなる程度に、風通しの良い所で陰干しする
- ②畑の準備
 - 水持ちが良く、地面の肥えた所で栽培する 圃場の石灰を施し出来るだけ深く耕起する
 - 水はけの悪いところは、高畝にする 乾きやすい圃場では作付けを控える
- ③植えつけ(パイプ栽培)
 - 株間25～30cmに種芋を植え付ける
 - パイプ栽培の場合は、開口部上約10cm離れた所に植えつける 案内棒を立て発芽点に沿わせ パイプの角度は約30度位にする
 - 種芋は5cm地中に入れ、上から5cm覆土をかける 地下のパイプは10cm離す
 - パイプ栽培同様10cmの覆土をかける 種イモの間に化成肥料、油粕を施す
- (通常栽培)
 - 支柱や竹は2m間隔に立てる 7月からの高温期には、敷きわらをする
 - 支柱や竹は合掌仕立て、ツルを右回りに誘引していく
 - 9月下旬よりムカゴが出来る 労力があればムカゴは取ってしまい、地下の芋に養分を集中させる
- ④管 理

ワ ンポイント

- 風通しを良くする為、ツルを広げるように誘引する
- 2～3年毎に圃場を変えると、収量が安定する

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥					備 考
		①	②	③	④	⑤	
苦土有機化成特A801	150g	50g	50g	50g	50g	50g	
なたね油粕	100g						
粒状苦土石灰	100g						

※第1回目は発芽が揃った頃、以降3週間に1回施用するが以降、地下のイモを太らせる為、8月下旬以降は散布しない

やさしい 野菜づくり



ダイコン

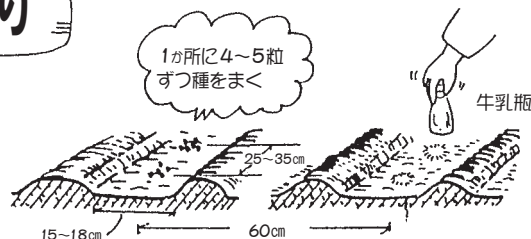
作 型 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

春まき
夏まき

● 種まき ■■■■■ 収穫

種まき

まきどき、用途、土質、好みなどに合う品種をえらび



牛乳瓶

牛乳瓶などで印をつけてまくと便利!!

間引き

(普通栽培は3~4枚時に1本立てとする)

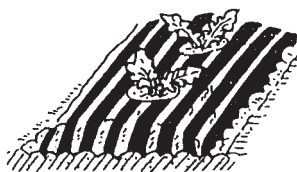
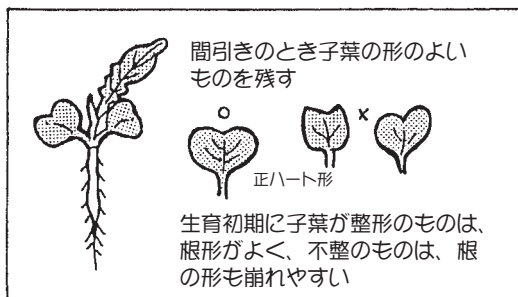
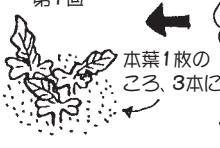
第3回(最終間引き)



第2回



第1回



シルバーの反射マルチでアブラムシの飛来を防ぐ



寒冷紗でアブラムシの飛来を防ぐ方法

育て方のポイント

①畑の準備

- 苦土石灰を施し、できるだけ深くていねいに耕す(碎土を細かく)

②種まき

- 株間30~35cmを目安として、1ヶ所に4粒前後に点まきする
- 覆土後は、軽く土を押さえて灌水する

③間引き

- 春まき栽培では、本葉1枚時に3本残し、本葉3~4枚時に2本にし、本葉5~6枚時に1本仕立てとする
- 夏まき栽培では本葉1枚時に3本残し、本葉3~4枚時に1本立てとする
(初期生育は、隣同士が触れ合うぐらいの生育を行なう)
- 間引きする株は、左図を参考に子葉の異形なもの、生育の劣っているものを抜き取る

④中 耕

- 間引き後は、株元に追肥を施用し軽く土と混ぜる

ワ ンポイント

- 夏まき栽培(8/15以前)の播種は、初期生育を抑えるようにする(軟腐病対策)
- 生育期の下葉の摘葉は行なわない(傷口をすることにより病気にかかりやすくなる)
- 収穫近くの子ツソの効きすぎは収量低下の原因となる
- 春まきはトウ立ちしやすい為品種とよく見る

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	150g	70g	50g	
苦土石灰	150g			

※追肥は、播種後20~30日頃に第1回を施用、その後、約10日後目安に第2回目を施用

J A

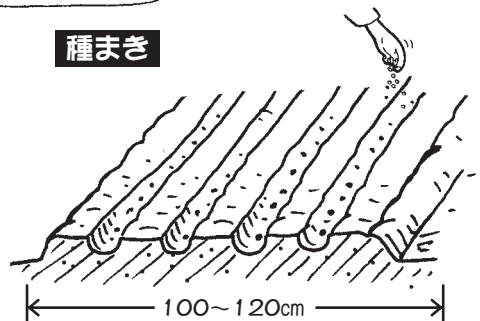


カブ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき					●	●	●	●	●	●	●	●
夏まき							●	●	●	●	●	●
秋まき									●	●	●	●

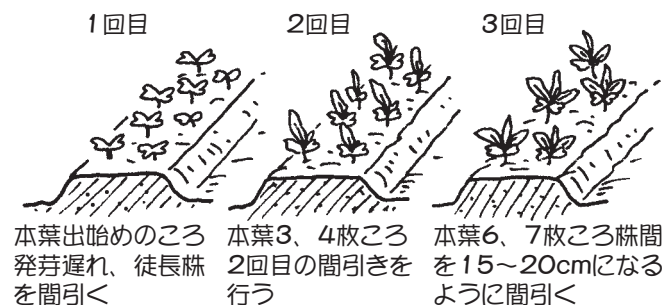
● 種まき ■■■ 収穫

種まき

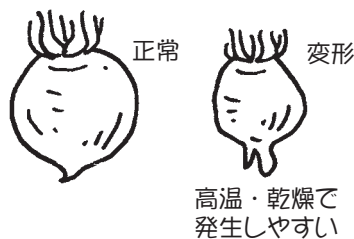


4条のまき溝をつけ、溝に沿ってはらまきする

間引き・追肥



収 穫



育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 発芽適温、生育適温は15℃～20℃である
 - 種まきの一週間前くらいまでに基肥を施して耕起しておく
 - 4条まきでは、うね幅100～120cmくらいでうね立てする
- ②種まき
 - 不織布をべたがけにするとよい
- ③管 理
 - 株間は15～20cmとし、込みすぎた所は間引く
 - 追肥は間引き後に行う
- ④収 穫
 - 好みの大きさになったら収穫する
 - 収穫が遅れると裂果しやすくなるので注意する

ワ ンポイント

- 高温、乾燥すると変形しやすくなるので注意する
- 後半の窒素過多はつやがなく品質が落ちる

施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥			備 考
		①	②	③	
苦土有機化成特A801	150g	20g	40g	40g	
苦土石灰	100g				
コンポストエース	2kg以上				施用が望ましい

やさしい 野菜づくり



ニンジン

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏まき栽培												

●種まき ✖️収穫

育て方のポイント

発芽適温：20℃ 生育適温：18～21℃
生育温度：8～30℃

- ①畑の準備**
 - 苦土石灰、基肥を施し、岐根防止のためできるだけ浅めに耕す
- ②種まき**
 - 1.5～2cm間隔に種をまく
 - 0.5cm程度の薄い覆土をする
 - 寒冷紗などをかけておくと乾きに強く発芽揃いがよい
- ③間引き**
 - 本葉2～3枚時と本葉5～6枚時の2回間引きをする
 - 2回目の間引きの際に土寄せも行う
 - 土に湿り気のある時に間引く
 - 最終的に株間10～15cm程度にする
- ④収 穫**
 - 収穫は種まき後100～120日を目安とする

ワンポイント

- ニンジンが発芽が重要であるから乾燥しないように気をつける 一週間以内に全て発芽させるようにする
- 間引き作業において、異常な生育旺盛株や葉色が極端に濃く茎が太い株、茎葉が短く横に広がっている株を間引くようにする 一度に間引きすぎないようにする 間引き時期をおくらせないこと
- 順調に生育させるには本葉2枚目時までのかん水と4～6枚目時のかん水が重要

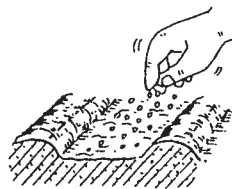
施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基 肥	追 肥		備 考
		①	②	
苦土有機化成特A801	160g	35g	50g	
苦土石灰	120g			

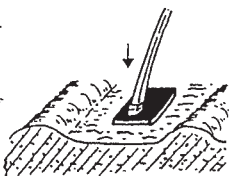
※追肥1回目は本葉2～3枚目の間引き時に、2回目は本葉5～6枚目の間引き時に行う



雨のあと畑が十分に湿ってから種まきする 乾燥がひどいときは、まく前に溝にたっぷり水をまいておく



1.5～2cm間隔に種をまく

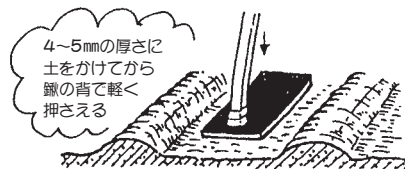


溝の底面は鍬をていねいに使ってできるだけ平にする

寒冷紗を溝全面に覆って防乾する

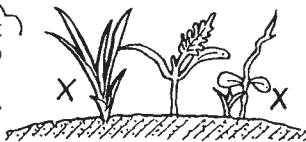


4～5mmの厚さに土をかけてから鍬の背で軽く押さえる



除 草 雑草 ニンジン 雑草

初めのうちは育ちがわめて遅いので、雑草防除を急にする



間引きと追肥

本葉2～3枚のころ6～7cm間隔に間引き、追肥をする



本葉5～6枚のころ10～15cm間隔に間引き、追肥をして軽く土を寄せる



毛なし 毛つき

毛つきの種は、まく前に手でよくもんで毛を落としてまくとよい





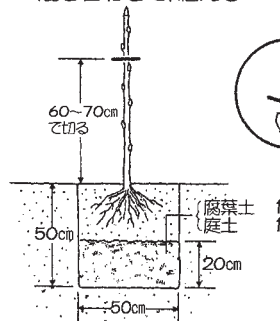
かき

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
← 施肥 →			← 施肥 →						← 施肥 →		
剪定 →											
									← 収穫 →		
											剪定 ←

植えつけ準備 (根が良く張れるように直径・深さ50cm穴を掘る)

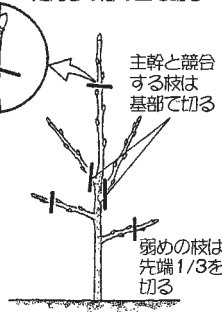
植えつけ(3月頃)

植え穴を掘って、腐葉土を混ぜ合わせて、植える



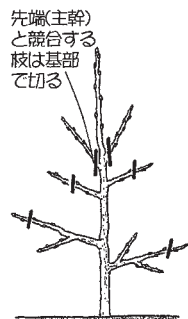
2年目(冬)

新梢の先端は1/3くらい切りつめる
このとき枝の向きと逆向きの芽の上で切る



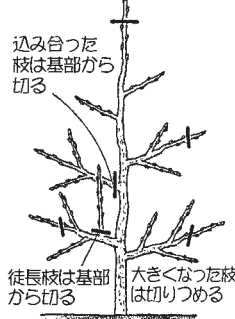
3年目(冬)

新梢の先端1/3くらい、枝の向きと逆向きの芽の上で切りつめる



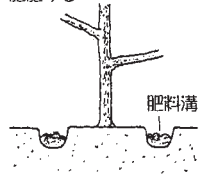
4年目以降(冬)

主幹の先端を切りつめ、3mくらいにする。以後毎年、冬にこの剪定をする

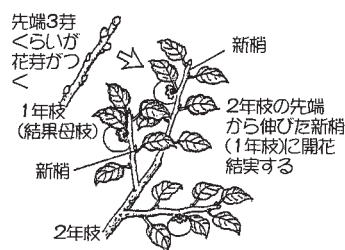


肥料

植えつけ2年めから与える
株張りの周囲に肥料溝を掘り、施肥する

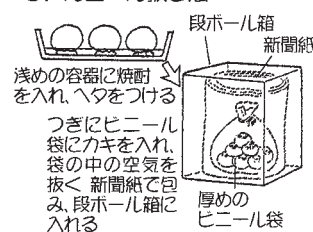


実のつき方



洗抜き方法

〇アルコール抜き法



育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 根が良く張れるよう直径、深さ50cm程度の穴を掘る
- ②植えつけ
 - 植え穴を掘って、腐葉土を混ぜ合わせて、定植する
 - 3月頃が最適(日当たり、水はけが良い所)
 - 植えつけ後、2ヶ月程度は乾燥しないように、灌水する
- ③肥料
 - 植えつけ2年目から肥料を施す 3月、6月、11月の3回
- ④整枝・剪定
 - 休眠期の12～3月に行う

ワンポイント

- カキは1果当たりで15～25枚の葉が必要である
- へたの大きいものは生理障害も少なく肥大もよいので、摘蕾・摘果では、へたの大きな果実を残すのがよい
- 花芽は7～8月上旬に新梢に分化し、3月頃に充実する
- 花芽は新梢の10～30cmの長さで、充実した枝につき、今年果実がなった枝にはつきにくい

施肥例(1㎡あたり)

	肥料	幼木(2～5年)	若木(6～10年)	成木(11年以降)
3月	苦土有機化成特A801号	400g	650g	850g
6月	苦土有機化成特A801号	400g	650g	850g
11月	苦土有機化成特A801号	1.0kg	1.3kg	1.8kg

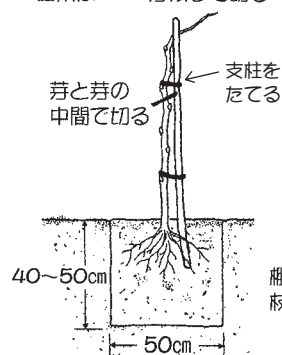


1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		定植・施肥				収穫		施肥	元肥	定植	
剪定											剪定

植えつけ準備 (根が良く張れるように直径・深さ40～50cm掘る)

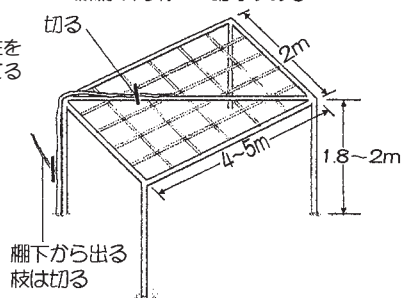
植えつけ

(11～12月又3月)
苗木は3～4芽残して切る



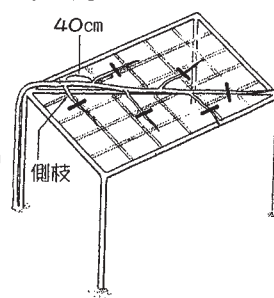
2年目 (冬)

支柱に沿って新梢を誘引し、
まっすぐの主枝をつくる
新梢の先端1/4切りつめる



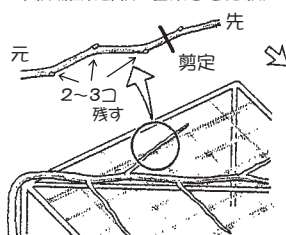
3年目 (冬)

側枝は間隔40cm、側枝の先端は
5～8節残して、芽と芽の中間で
切りつめる

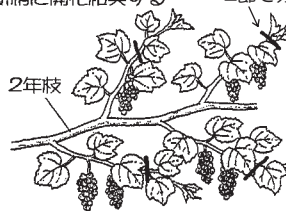


実のつき方と枝の残し方

2年枝(結果母枝1着果させた枝)

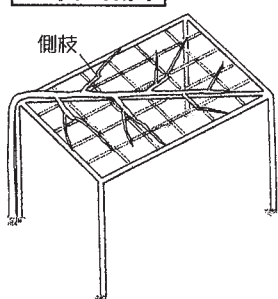


2年枝の各芽から伸びた
新梢に開花結実する



新梢はそろった3～4本を残し、
ほかはかき取る

4年目以降



1新梢当たり、小～中粒種では
1～2果房、大粒種なら1果房に
摘房する

摘心

第1回目ジベレリン処理時に、葉数が10枚程度残るように
新梢先端をつみとる

育て方のポイント

① 植えつけ

- 土をよく耕し、直径・深さ40～50cmの植え付け用穴を掘る
※日当たり、水はけの良いところを選びましょう!!
- 苗木の根を広げ、堆肥を混ぜた土を入れ、水を十分に与える
- 主枝は3～4芽のすぐ上で切り、支柱を立てる

② 肥料

- 3月下旬、収穫後、10月下旬(元肥)に肥料を与える
3月 収穫後 10月(元肥) 1㎡当たり
BM有機果樹専(8-7-7) 300g 700g 1kg

③ 整枝・剪定

- 着果させた新梢は、房から先に向かって葉2枚で剪定する
- 11月下旬頃から着果させた枝を、基部の芽を2～3個を残して剪定する
- 植え付けから2年目以降は棚を作り、その上を枝が這うように整枝する

④ 房づくり

- 開花前に副穂や房の先端などを、下図のように切り落とす
- 1新梢当たり2～3房、1房辺り90～100粒になるよう調整する

⑤ 収穫

- 収穫は朝方の気温が低いときに行ない、降雨などで裂果しやすいので、完熟した房から行なう
- 収穫期を過ぎた房は早めに除去し、樹への負担を軽くする

● 種無しぶどうの作り方

- ①開花2週間前(房長:1.8mm、展開葉数:10～11枚)の房をジベレリン100ppm(10,000倍)水溶液に浸してよく振る
- ②満開から10日後の房を①と同様の液に浸して、よく振る

ワンポイント

- 1回目のジベレリン処理の時に房づくり(副穂除去)を行なうと、作業の目安となる
- 定植1～2年目の房は早めに除去し、樹の生長を促し、3年目以降から本格的な収穫を行なう

房づくり



※開花前
(ジベ処理時に行う)

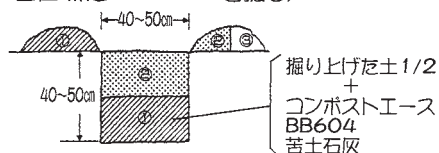


うめ

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培					施肥	施肥	剪定				施肥	収穫

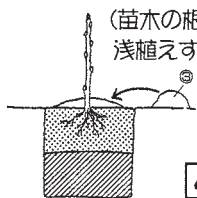
植えつけ準備

(根が良く張れるように
直径・深さ40～50cmを掘る)



植えつけ (12～3月)

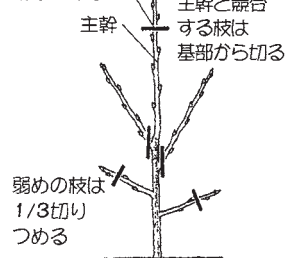
(苗木の根を広げて
浅植えする)



4年目 (冬)

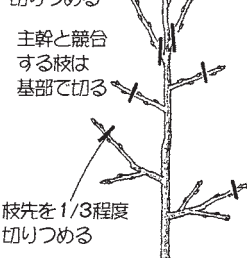
2年目 (冬)

新梢は先端
を1/3くらい
切りつめる

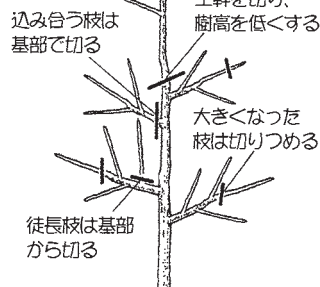


3年目 (冬)

新梢の先端を
1/3くらいを
切りつめる

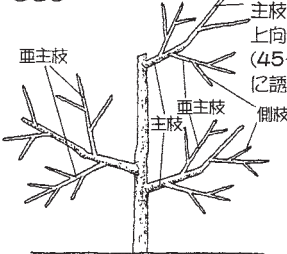


主幹の先端を
切りつめ3m
程度にする



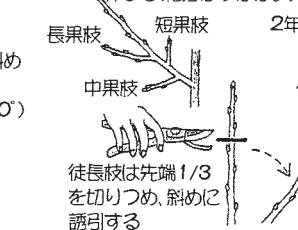
5年目以降

杯状仕立てにする。斜め上向きの
主枝2～3本とし、1主枝に垂主枝
2本、垂主枝に側枝を配置し結実
させる

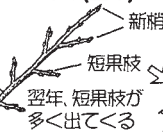


徒長枝の切り方と実つき

徒長枝は1m以上も
伸びる(花がつかない)



○2年め(翌年)



○3年め



実つきをよくするポイント

・1枝当たり5～6果を目安に摘果する

育て方のポイント

- ①畑の準備
 - 根が良く張れるように直径・深さ40～50cm掘る
- ②植えつけ
 - 苗木の根を広げて浅植えする
 - 12～3月頃、日当たり・水はけの良い所に植える
- ③肥 料
 - 植え付け一年目から肥料をやる
- ④整枝・剪定
 - 幼木期(2～4年目)は主幹形に仕立てる 5～6年たったら、主枝を整枝して、樹高の低い杯状仕立てにし、枝の内部まで日当たりを良くする
 - 日当たりが悪いと、実のつく短果枝や中果枝が枯れてしまうため、6月頃徒長枝をつけ根から切り落とし、日当たりを良くする

ワンポイント

- 花芽は7～8月上旬に新梢のえき芽に分化し、翌年開花する
- 剪定はできるだけ短果枝を残し、開花が始まる1月までに終わらせる
- 落果は開花期～幼果期、硬核期～収穫期に多いが、受精、栄養、日照不足が原因である

施肥例(1㎡あたり)

	肥 料	幼木(1～4年)	若木(5～10年)	成木(11年以降)
5月	BM有機梅配合新号	250g	500g	750g
7月	BM有機梅配合新号	250g	500g	1kg
11月	BM有機梅配合新号	500g	1.5kg	3kg

農 業 用 語 説 明

アルカリ性土壌 (あるかりせいどじょう)	<ul style="list-style-type: none">・ phが7より大きくアルカリ性反応を起こす土壌。・ 土壌のアルカリ性程度は次のように示され、ph8以上の土壌では作物の生育は悪くなる。 <table><tr><td>6.5</td><td>7.0</td><td>7.5</td><td>8.0</td><td>8.5</td></tr><tr><td>中 性</td><td>微アルカリ性</td><td>弱アルカリ性</td><td>アルカリ性</td><td>強アルカリ性</td></tr></table>	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	中 性	微アルカリ性	弱アルカリ性	アルカリ性	強アルカリ性
6.5	7.0	7.5	8.0	8.5							
中 性	微アルカリ性	弱アルカリ性	アルカリ性	強アルカリ性							
アントシアン	<ul style="list-style-type: none">・ 花、果実、葉、根の赤、青、紫、紫黒色などの色のもととなる色素。・ 細胞の液胞内に溶液として存在する。										
暗好性種子(あんこうせいしゅし) ⇨明発芽種子、好光性種子	<ul style="list-style-type: none">・ 別名『嫌光性種子』。暗黒下で発芽が促進される種子。・ トマト、ナス、ウリ類、ネギ属の数種、カボチャなどがこれにあたる。										
アンモニア態窒素 (あんもにあたいちっそ)	<ul style="list-style-type: none">・ ある種のアミノ酸や尿素などの簡単な構造の有機態窒素も直接植物に吸収されて窒素の供給源となるが、『アンモニア態窒素』と『硝酸態窒素』が植物に吸収利用される主な形である。										
移植(いしょく)	<ul style="list-style-type: none">・ 植物を今まで育ってきた場所から他の場所に植え替えること。・ 収穫までおくべき場所へ移植することを『定植』といい、定植までの間に苗床間で行なう移植を仮植という。										
EC(いーしー)	<ul style="list-style-type: none">・ 別名『電気伝導度』、溶液となっている塩類は電解質で電気をよく通すので、電気伝導度を測ることにより土壌中における養分含量の目安となる。										
晩生(おくて、ばんせい)	<ul style="list-style-type: none">・ 作物など、暦の上で収穫期の遅いもの・収穫までの栽培期間が比較的長いもの。										
親づる(おやづる)	<ul style="list-style-type: none">・ ウリ類などの『つる』のうち、幼芽が直接伸びやもの。・ 親づるから一次的に分岐したつるが子づる。子づるから分岐したつるが孫づる。										

花芽分化(かがぶんか)	<ul style="list-style-type: none"> ・花芽形成の初期に、花の各部のもと(原基)ができること。 ・作物により温度、日照等さまざまな条件下で違いがある。
隔年結果(かくねんけっか)	<ul style="list-style-type: none"> ・果実のできが1年おきに良・不良を繰り返すこと。 ・果樹では、一般に放任してある年に着花・結果が多くなると、その翌年は着花・結果ともに少なくなり翌々年にはまた多くなるという現象を生じる、過剰な結果が樹勢を弱めるからで、適度な剪定などによって防ぐことができる。
株間(かぶま)	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の株との間の植え付け距離、条間距離とは違うので注意！！ <p>例)株間30～40cm</p>
カリ肥料(かりひりょう)	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料3要素中の1つであるカリウムを主体にした肥料。 ・『草木灰』、『硫酸加里』、『塩化加里』など。
過燐酸石灰(かりんさんせっかい)	<ul style="list-style-type: none"> ・リン鉱石を粉砕し、これに硫酸を加え混合して反応させたリン酸肥料。
緩行性肥料(かんこうせいひりょう)	<ul style="list-style-type: none"> ・分解吸収が徐々に行なわれ、肥効がゆるやかに現れる肥料。 ・即効性肥料と遅効性肥料の中間のもの。
気孔(きこう)	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の体表にあって、ガス交換や蒸散のために空気や水が出入りする器官。 ・一般に葉の裏側に多く、外界の条件によって開閉する。
苦土(くど)	<ul style="list-style-type: none"> ・通称マグネシウム、葉緑素の形成に不可欠な物質で、マグネシウムが欠乏すると葉が黄化する。 ・肥料では、酸化マグネシウム(MgO)の形で、酸性土壌の改良も兼ねて施される。
光合成(こうごうせい)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑色作物が、光エネルギーを用いて炭酸ガスを固定(有機物に転化)する過程。 ・そのとき水が消費され、固定され炭酸ガスとほぼ同量の酸素を発生する。
好光性種子(こうこうせいしゅし) ⇔嫌光性種子	<ul style="list-style-type: none"> ・光があたるとよく発芽するが、暗黒中では全然発芽しないか発芽の悪い種子。 <p>例)タバコ、シソ、ゴボウなど</p>

催芽(さいが)	<ul style="list-style-type: none">・種子や球根などを、播種または植え付け前に少し発芽させること。・発芽しにくいものでは、催芽により発芽を一様にし、生育を早める効果がある。										
酸性肥料(さんせいひりょう)	<ul style="list-style-type: none">・肥料自体の水溶液の性質が酸性を示す化学的酸性肥料と、主成分が吸収された後の残留成分が土壌反応を酸性にする生理的酸性肥料がある。前者は過燐酸石灰など、後者は硫酸アンモニア・硫酸カリなど。										
酸性土壌(さんせいどじょう)	<div><ul style="list-style-type: none">・一般に降雨や酸性肥料の施用によって、置換性カルシウム・マグネシウムなどの塩基が流亡し、これらのイオンに換って水素イオンやアルミニウムイオンが土壌コロイドに吸着されるため、酸性化するとされている。<table><tr><td>5.0</td><td>5.5</td><td>6.0</td><td>6.5</td><td>7.0</td></tr><tr><td>強酸性</td><td>酸性</td><td>弱酸性</td><td>微酸性</td><td>中性</td></tr></table></div>	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	強酸性	酸性	弱酸性	微酸性	中性
5.0	5.5	6.0	6.5	7.0							
強酸性	酸性	弱酸性	微酸性	中性							
直播き(じかまき)	<ul style="list-style-type: none">・苗床で育苗することなしに、本圃(ほんぼ)に直接種子を播きつけること。										
支柱根(しちゅうこん)	<ul style="list-style-type: none">・地上の節から出て、地中に入る太い根。・茎の支えとなり、上部より出た根は地面に到達せず気根状になることが多いが、下部からでたものは地中に入り、養水分の吸収も行なう。トウモロコシなどに見られる。										
硝化細菌(しょうかさいきん)	<ul style="list-style-type: none">・硝化菌、硝酸化成菌。アンモニアを酸化して亜硝酸にする『亜硝酸菌』と亜硝酸を硝酸に酸化する硝酸菌がある。・いずれも土壌細菌で、肥料の分解・吸収に重要な働きをしている。										
蒸散(じょうさん)	<ul style="list-style-type: none">・高等植物において、体内の水が水蒸気として体外に排出されることをいう。特に葉から空中に排出される。										
硝酸態窒素(しょうさんたいちっそ)	<ul style="list-style-type: none">・土壌、肥料の中にある窒素の形態の一つ、水に溶けやすく肥効は速やかであるが、土壌に吸収保持されないから、雨水や灌漑(かんがい)水によって流失されやすい。										

除草剤(じょそうざい)	<ul style="list-style-type: none"> ・『接触性除草剤』(薬剤が触れた部分だけを枯らす)と『移行性除草剤』(根や茎葉から吸収され他の場所へ移行して植物全体を枯らす)とがある。 ・また、『非選択性除草剤』(すべての植物を枯らす)と『選択性除草剤』(一部の植物だけを枯らす)がある。
芯止まり(しんどまり)	<ul style="list-style-type: none"> ・芯が伸びずに止まった状態になること、トマトでは2葉または1葉ごとに花房が発生し、花房のしたのわき芽が伸びるのが通常であるが、このわき芽が伸びないと芯が止まった状態となる。
中耕(ちゅうこう)	<ul style="list-style-type: none"> ・生育中の作物の作条の間を耕す作業、雑草などを除くとともに、土の物理的性質を改善する効果がある。
土寄せ(つちよせ)	<ul style="list-style-type: none"> ・中耕の一種で、畦の間の土を作物の株際に寄せ付けること、倒伏を防いだり排水を良くする効果がある。
飛び節成り(とびふしなり)	<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリの着果習性の一つの型、各節に着果しないで、着果する節が連続しない(飛ぶ)のでこのように呼ぶ。
中生(なкат)	<ul style="list-style-type: none"> ・成熟期、収穫期を早・中・晩に分けたとき、早生と晩生の間のもの。
必須元素(ひつすげんそ)	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の栄養として不可欠の元素。 ・炭素、酸素、水素、窒素、リン、イオウ、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、マンガン、ホウ素、亜鉛銅、モリブデン、塩素の16元素。 ・はじめの9元素を多量元素、後の7元素を微量元素という。
被覆肥料(ひふくひりょう)	<ul style="list-style-type: none"> ・粒状肥料の粒表面を被覆加工したもの、粒表面を物理的に被覆することにより、水溶成分が流出するのを制御し、緩効化、遅効化を図っている。
肥料三要素(ひりょうさんげんそ)	<ul style="list-style-type: none"> ・作物に特に施さなければならない窒素、リン、カリウムをいう。これらの三つの要素は、天然の供給量では、作物の需要を満たすには不十分なので、人工的に施す必要があり、実際には窒素(N)、リン酸(P_2O_5)、カリ(K_2O)の形で施される。

複合肥料(ふくごうひりょう)	・ 一般には、化成肥料と配合肥料を統合した呼び名であるが、肥料取締法では窒素、リン酸、カリの2成分以上含有することを保証するものをいい、次の5種類に分けられる。
分球(ぶんきゅう)	・ タマネギ栽培で早まきした大苗を植えた場合、春になって鱗茎(りんけい)が分かれること。
ホットキャップ(ほっときゃっぷ)	・ スイカの露地直播栽培などで、株ごとに保温用に用いるプラスチックフィルム製のキャップ(小さな覆い)
ボトニング(ぼとにんぐ)	・ カリフラワーの花蕾(からい)の異常発育の一つの形で、早期に花芽分化を起こし、小さな花蕾のままになること。
有機質肥料(ゆうきしつひりょう)	・ 動物または植物を原料とした肥料で、有機物を含んでいるもの。 ・ 有機質肥料では、動物質肥料(魚肥・骨肥)と植物質肥料(油粕肥・緑肥など)に分けられる。
リーフィーヘッド	・ カリフラワーで花芽分化した後、高温のための花蕾の中に小葉が混生したもの。
燐酸(りんさん)	・ 窒素、カリと並ぶ肥料三要素の一つ、 P_2O_5 で表され、生物体内で核酸の成分となるなど重要な役目をもつ。
早生(わせ)⇔晩生	・ 生育期間、播種してから開花、成熟、結実するまでの期間の短いものをいう。

(記帳例) 栽培日誌(野菜類モデル)

J A 名：金沢市 県名：石川

生産者：金沢 太郎

圃場場所：金沢市松寺町未59-1

作物： 胡瓜

品種： シヤーワ7

圃場面積： 15a [露地(施設)]

播種月日： 1月20日

定植月日： 3月1日

収穫月日： 3月25日～6月20日

施肥・土づくり等						
月 日		施肥・資材名		施 肥 量		
2月22日		IBS1号 ゆつくり<ん 燐硝基加里S604 過燐酸石灰 硫酸マグネシウム FTE		210kg 180kg 30kg 90kg 30kg 6kg		
月日 (天気)	使用薬剤名・剤型	薬剤使用量		対象病害虫	備 考	収穫日 他作業等
		希釈倍数	散布薬量			
2 / 2 (曇り)	オーソサイド (粒・粉・水・乳・FL・)	800	2ℓ/3.3㎡	苗立枯病	噴霧機で全面	
2 / 25 (晴れ)	ダコニール1000 (粒・粉・水・乳・FL・)	1,000	10ℓ/20㎡	褐斑病	"	
3 / 1 (晴れ)	オリゼメート (粒・粉・水・乳・FL・)	—	5 g / 株	斑点細菌病	樋穴土壌混和	
3 / 1 (晴れ)	アボマイヤー1 (粒・粉・水・乳・FL・)	—	1 g / 株	アブラムシ類	"	
3 / 26 (曇り)	ロブラール (粒・粉・水・乳・FL・)	1,500	150 ℓ	灰色かび、つる枯れ	散布	
4 / 12 (曇り)	アリエツテイ (粒・粉・水・乳・FL・)	800	200 ℓ	べと病	"	
4 / 12 (曇り)	ベストガード (粒・粉・水・乳・FL・)	1,000	200 ℓ	コナジラミ、アブラムシ	"	
4 / 28 (晴れ)	フルヒカ (粒・粉・水・乳・FL・)	2,000	200 ℓ	灰色かび、うどんこ	"	
5 / 14 (曇り)	セイビアー-20 (粒・粉・水・乳・FL・)	1,000	200 ℓ	灰色かび	"	
5 / 14 (曇り)	モスビラン (粒・粉・水・乳・FL・)	2,000	200 ℓ	アブラムシ、アサミクラ	"	
/ ()	(粒・粉・水・乳・FL・)					
/ ()	(粒・粉・水・乳・FL・)					
/ ()	(粒・粉・水・乳・FL・)					
/ ()	(粒・粉・水・乳・FL・)					

- 注)
1. 播種、定植、収穫開始、収穫日は必ず記入する。
 2. 薬剤名は、〇〇乳剤、〇〇水和剤等のように必ず剤型名まで明記する。
(粒：粒剤、粉：粉剤、水：水和剤、乳：乳剤、FL：フロアブル剤)
 3. 土壌消毒、種子消毒、除草等、薬剤を使用した場合の全てを記入する。
 4. 2種以上の薬剤を混用して散布した場合は、必ずその旨を明記する。
 5. 記帳にあたっては、圃場ごとか作型ごとに記帳する。
 6. 備考欄には、病害虫の発生状況や防除効果などをメモしておくとい。

農藥希釈倍率換算表

単位：g・mℓ

水量 倍数	1ℓ	2ℓ	3ℓ	4ℓ	5ℓ	10ℓ
500倍	2.00	4.00	6.00	8.00	10.00	20.00
600倍	1.67	3.34	5.01	6.68	8.35	16.70
700倍	1.43	2.86	4.29	5.72	7.15	14.30
750倍	1.33	2.66	3.99	5.32	6.65	13.30
800倍	1.25	2.50	3.75	5.00	6.25	12.50
1,000倍	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	10.00
1,200倍	0.83	1.66	2.49	3.32	4.15	8.30
1,500倍	0.67	1.34	2.01	2.68	3.35	6.70
2,000倍	0.50	1.00	1.50	2.00	2.50	5.00
2,500倍	0.40	0.80	1.20	1.60	2.00	4.00
3,000倍	0.33	0.66	0.99	1.32	1.65	3.30
4,000倍	0.25	0.50	0.75	1.00	1.25	2.50
5,000倍	0.20	0.40	0.60	0.80	1.00	2.00



- 営農相談課 237-0067 ●園芸販売課 237-3945
- 米穀販売課 237-3946 ●経 済 課 237-3947
- 農機センター 237-1441

- | | 〈電話〉 | 〈FAX〉 |
|-------------------|----------------------|----------------------|
| ●アグリセンター西部安原 (粟五) | 249-2000
239-0100 | 249-1999
237-0549 |
| ●砂丘地集出荷場 (南部) | 249-6616 | |
| ●アグリセンター南部富樫 | 245-4600 | 245-4611 |
| ●アグリセンター東部崎浦 | 262-0200 | 262-0300 |
| ●アグリセンター北部森本 | 258-3100 | 258-3110 |
| ●アグリセンター中部松寺 | 237-0123 | 237-0675 |
| ●ほがらか村 本 店 | 237-0641 | 237-0675 |
| ●ほがらか村 崎 浦 店 | 262-6590 | 262-0300 |